

学 位 論 文

大学生の進路相談場面における
解決志向的質問技法の有効性の検討

広島大学大学院 教育学研究科

教育人間科学専攻

栗田 智未

目 次

第 1 章	本研究の背景と目的	1
第 1 節	解決志向的面接技法の有効性に関する研究	2
第 2 節	解決志向的面接技法に対するクライアント応答に関する研究	8
第 3 節	本研究の目的	15
第 2 章	大学生の進路相談場面における解決志向的質問技法の有効性の検討	17
第 1 節	基本的傾聴技法との比較からみた解決志向的質問技法の有効性(研究 1)	18
第 2 節	解決志向的質問技法の有効性と志向性との関連—未来志向と現在志向の比較—(研究 2)	31
第 3 節	クライアント応答の把握方法と図示の試み—グラウンデッド・セオリー・アプローチによる質的分析—(研究 3)	37
第 3 章	総合考察	56
第 1 節	本研究の成果と意義	57
第 2 節	今後の課題	58
	引用文献	64
	資料	73

第 1 章

本研究の背景と目的

第1節 解決志向的面接技法の有効性に関する研究

1. 解決志向的面接技法とは

ブリーフセラピーは短期療法と訳されることが多く、心理療法的なサービスをより効率的に効果的に提供しようとするアプローチである。そのブリーフセラピーのモデルの1つである解決志向アプローチ (Solution-Focused Approach: 以下, SFA) は、クライアント (以下, CL) にとってどのような状況になったら問題は解決したと思えるかという解決に焦点を当てるアプローチである (DeJong & Berg, 1998 玉真・住谷監訳 1998)。SFA は、心理臨床家にとって「今後学びたい理論及び技法」として現在注目されている (近藤, 2005)。

SFA は、米国ウィスコンシン州ミルウォーキーにある短期家族療法センター (Brief Family Therapy Center: BFTC) において発展してきた心理的援助技法である。1980 年代以降、SFA はブリーフセラピーにおける新たなアプローチの1つとして定着している (DeShazer, Berg, Lipchik, Nunnally, Molnar, Gingerrich, & Weiner, 1986)。開発当初より、SFA には定式化された技法や面接のマニュアルが提示されている。しかし、より幅広く多様な場面で応用されるよう開発当初の形式を基盤に変化や発展を続けている (吉川, 2002)。宮田 (1994) は、現在の SFA を開発当初と比べ変化している点として、たとえば各質問を用いる目的や質問の仕方、面接の進め方、与える課題の有無などに違いがあると指摘している。現在では、開発当初の SFA の本質的な枠組みを尊重しつつ、SFA の応用形、発展形として様々な臨床場面で適用されている。

2. 解決志向的面接技法の有効性

SFA は、わが国でも 1990 年代から積極的に導入され、精神医学や心身医学領域だけでなく、学校教育、産業の分野など広範な臨床場面で活用され評価を得ている（宮田, 1997）。その理由の 1 つに、SFA が各場面で効果を発揮していることが挙げられる。SFA の効果は、臨床事例研究や臨床的な介入研究によって検討された結果、主な効果として、問題の改善、自己効力感の向上、問題認知のポジティブな変化、パフォーマンス（行動）の促進などが指摘されている。以下に、各効果について具体的に述べる。

1) 臨床報告に基づく効果研究

(1) 問題の改善

SFA による問題の改善については、様々な領域での臨床実践の報告で指摘されている。

医療の領域では、抑うつ、統合失調症、アルコール依存症といった精神科領域において、CL や家族を対象としたカウンセリングやグループワークで SFA を取り入れたプログラムが行われている。そこでは、CL の既にある「健康なパターン」を強調し、CL の能力を有効利用しながらポジティブな将来のイメージを導き、現実的で達成可能なゴールを確認して問題の解決に向けて検討する。これらの作業を通して、CL の問題や症状が緩和したことが示されている（Berg & Miller, 1992 斎藤監訳 1995; Eakes, Walsh, Markowski, Cain, & Swanson, 1997; Triantafillou, 1997）。また、過換気症候群や過敏性腸症候群、神経性食思不振症、心的難聴、慢性疼痛などといった心療内科領域での診療に SFA を活用した報告がある。報告によると、治療において 4 つの技法（治療関係のタイプを吟味する、問題を解決の資源として活用する、可能性を引き出す対話を行う、定型的質問を使用する）が有効であった（江花・

山本・秋庭・吉村・境・津久井・天保・川原・津久井, 2000; 小崎・長谷川, 2000; 椋田・宮川・阪中・松林, 2000; 小関・中野, 2000)。他にも, HIV 感染者への心理教育や禁煙及び減煙を勧めるカウンセリングのプログラムにも SFA が適用されている。それぞれ HIV 教育の効果や禁煙及び減煙を促進する効果があったことが示されている (Pomeroy, Green, & Laningham, 2002; Browne & Shultis, 1999)。

福祉の領域では,ペアレント・トレーニングに SFA が用いられている。トレーニングでは, 問題なく子どもとの関わりができた時(例外)を探すことや, 子どもとどのような関わりができたならよいと思うのかといった解決像を明らかにしていく。それにより, 対象者の養育態度に改善が見られ, より適切な養育態度で子どもと接するようになった (Sharry, 1999,2003)。

教育の領域では, 大学, 高校, 中学, 小学校の教師やスクール・カウンセラーが面接技法の1つとして SFA を取り入れ, 教育相談やスクールカウンセリング, 授業や学級活動の中で SFA のプログラムを組んで実施を試みた報告などがある(知野見,1999; 比嘉, 2000; 久能, 2002; 村山・雲林院, 2000; 定金, 1996)。いずれも効果を上げているが, その背景には, SFA の面接技法が挙げられている。SFA の面接技法によって, CL の資源と長所をできる限り引き出して活用することや, CL の望む具体的な未来のイメージを描くことで, CL に新たな気づきを促したことが効果につながったと指摘されている。さらに, 学習障害や行為障害の児童に SFA による介入を施し, 対象児童の学校環境を改善したという報告, 不登校や家庭内暴力を示す児童や生徒への介入として家族療法において SFA の技法が活用されたという報告などがある (Franklin, Biever, Moore, Clemon, & Scamardo, 2001; Geil, 1998; 小崎・長谷川, 2000)。

いずれも SFA による例外の発見やソリューション・トークの効果が認識されている。このような例外の発見やソリューション・トークの効果を見込んで、教師へのコンサルテーションへの適用や SFA を利用した教師用のカウンセリングモデルの研究、学習支援教材の開発という視点でも SFA が取り入れられている（栗原，2002；宮田，1994；島田，2003）。

司法の領域では、非行少年の矯正教育や犯罪者の治療で、SFA が適用され、犯罪常習率が低下したという報告がある（Lindforss & Magnusson, 1997；Seagram, 1997）。また、非行少年の保護者に SFA のカウンセリングを行った報告によると、問題に焦点化しない SFA は CL の心理的負担感を軽減し、短期間で精神的な安定をもたらし、監護の自信を取り戻すなどの効果を上げることができた（笹竹，2000）。

このような SFA による問題の改善が促された背景には、自己効力感の向上や問題の認知のポジティブな変化、パフォーマンス（行動）の促進が示唆されている。

（2）自己効力感の向上

自己効力感の向上については、たとえば、黒丸・内田・中井（2000）が、心療内科の外来診療に SFA を取り入れて治療を行った報告がある。それによると、CL の自己効力感を引き出し活性化させることにより症状を改善させた。馬場・小林・龍田・大場・伊藤（2002）は、摂食障害患者とその家族への心理教育的グループプログラムに SFA の視点を取り入れた。プログラム後、CL の自己効力感は向上したと報告している。栗原（2002）は、学校カウンセリングにおいて SFA を導入し、生徒の自己効力感が向上したと述べている。中野（2002）は、地域保健センターにおける子育て支援を目的としたグループ・カウンセリングで SFA を取り入れたところ、母親の子育てに対する自信が回復したと指摘してい

る。このような自己効力感の向上について、小関(1998)によれば、「例外を探す技法」で例外を探し出し、例外が起こっていた時の様子を尋ねることは、変化を起こす能力と責任が自身にあるという前提を伝えることになり、自尊心や解決への意欲を高めるため、と指摘している。

(3) 認知の変化

認知の変化については、定金(1996)は、SFAの進路カウンセリングを行った事例を通して指摘している。それによると、認知の変化と行動の変容との相互作用を示しながら、SFAによってCLの問題認知はポジティブに変化したと考察している。同様に、小林・馬場・龍田・大場・伊藤(2002)は、摂食障害患者の家族への心理教育的グループプログラムにSFAの視点を取り入れたところ、家族機能の健康度に関する認知が改善したと指摘している。また、笹竹(2000)は、非行少年の母親との面接を振り返って、CLの思考や発想のパラダイムの変換や新たな認識を生み出す上で、SFAの質問が貢献していたと述べている。このような問題の認知のポジティブな変化について、小関・中野(2000)や宮田(1997)によれば、SFAの質問はものの見方に働きかけ変化を引き起こす重要な手段であることが関与していると指摘している。また、小関(1996)は質問によってCLの従来の認知や問題の定義が一旦棚上げされ、新たな意味が構成されると述べており、SFAの質問がCLの問題の認知に変化を及ぼすことが示唆されている。

(4) パフォーマンスの促進

パフォーマンス(行動)の促進については、上記の問題の改善とも関連している。たとえば、Sharry(1999, 2003)では、保護者の養育態度が改善し、これまでの養育態度とは異なるより適切な養育態度で子どもと接するようになった。従って、適切な養育行動を促進したといえる。

Browne & Shultis (1999) では、SFA による禁煙及び減煙を勧めるカウンセリングのプログラムを実施したところ、禁煙及び減煙する行動を促進したといえる。このようなパフォーマンス（行動）の促進については、宮田(1992)、中西（2000）、村上（2003）によれば、彼らの臨床実践の経験から、SFA の質問によって、目標を設定することで目標を達成しようという期待を作り上げ、問題解決への行動を促進させるのであろうと指摘している。

2) 臨床研究に基づく効果研究

臨床報告のみならず、対照群（統制群）を設けた臨床研究においても SFA の効果は確認されている。例えば、Zimmerman, Prest, & Wetzel (1997) や Nelson & Kelley (2001) は、夫婦の関係性強化を目的としたグループセラピーや心理教育プログラムに SFA を導入した。その結果、夫婦関係が改善され、参加者の結婚満足度が対照群に比べ有意に増加した。Selekman (1996) や Zimmerman, Jacobsen, & Watson (1996) は、思春期の子どもの問題行動に悩んでいる保護者を対象に SFA を取り入れた子育て講習会を行った。講習会后、講習会前に比べて参加者の子育てスキル得点が上昇した。Lafountain & Garner (1996) は SFA を習得したスクール・カウンセラーとともに小学生にグループ・カウンセリングを実施した。その前後で調査を行ったところ、生徒の問題が解決あるいは改善され、その効果を得ている。Dahl, Bathel, & Carreon (2000) は、高齢の外来患者を対象に SFA を用いた問診を導入し、導入前後に治療意欲について患者自身の自己評価による調査を行った。SFA を用いた問診の導入後、対象患者の治療意欲得点が導入する以前より高まったとしている。

3) 従来の効果研究の問題点

しかし、このような SFA の効果や効果のメカニズム（機序）は、臨床実践において示唆されているのみで、推察や仮説の段階に留まっているといえる。SFA の効果や効果のメカニズム（機序）は、先行研究でも明らかにされておらず、実証的に検討し示されていない。SFA の技法も心理臨床で用いられる技法に多く見られるように、演繹的というよりは帰納的に開発された経緯があり、技法の効果はあるが、なぜ効果があるのかについては十分検討されていない。SFA の効果のメカニズムを検討していくためにも、まずは SFA の効果評価の検討を行う必要がある。

SFA の効果について、対照群（統制群）を設けた臨床研究は上記のようにわずかにあり、SFA の効果は確認されているが、臨床場面における研究であることから、手続き上の限界や問題点が指摘されている (Gingerrich & Eisengart, 2000)。臨床的な研究では、臨床場面であるということから、調査対象者の年齢や社会的立場の統制を十分に行うことは難しい。臨床群であるために、統制群の設け方や各群への対象者の配分の手続きも適切になされにくい。また、臨床実践の報告や臨床研究では、SFA による介入の対象は集団が多く、指摘されている効果はグループの作用によるものか、SFA 本来の効果によるものか明確ではない。従って、SFA の有効性を実証的な方法で検討する必要がある。

第 2 節 解決志向的面接技法に対するクライアント応答に関する研究

1. 解決志向的面接技法の質問

SFA では問題解決を図るにあたり、まず CL に望ましい自分の未来のイメージを作らせ、CL が既に実行していることのうち、未来のイメージに合致することに着目させることを基本理念としている (原田, 2002)。

この基本理念のもと、SFA では問題の分析よりも解決の構築に焦点を当てているため、問題の原因を探り原因を除去しようとはしないという方針で進められる。心理的援助の現実を考えた場合、問題や原因を見つけたとしても、それが必ずしも解決にはつながらない、問題と解決の間には何ら関係はないものとして考えるためである。問題を定義することさえも不要であり、“解決の構築”のみが援助の本質であるとしている。ここでいう“解決の構築”とは、小さな解決（既にある解決状態や適応状態）を引き出し、広げ、積み重ねていくことである（市川, 2001; 吉川, 2002）。それは、CL の成功経験や内的資源をうまく引き出し、認め、既に解決しているところやうまくいっているところを CL とカウンセラーが共同で見出し、認め、広げていく作業である（市川, 2001）。そのような作業を通して、解決方法を検討し実践を重視する。解決方法の実践については、一挙に解決しようとするのではなく、小さな一歩を踏み出し、成功すれば実践頻度を高めるというスモール・ステップで行われる（栗原, 2001; 島田, 2003）。

この解決を構築する作業を進めるために、次のような質問や応答技法が開発されている（Berg, 1994 磯貝監訳 1997）。

1) ミラクル・クエスチョン

ミラクル・クエスチョンは、CL の目標とする解決のイメージを作るための作業を行う。CL がどのように解決をイメージしているかを理解するためのものでありながら、面接の目標設定にもなっている。

2) 例外探し

例外探しは、CL の述べるこれまでの対応の中から、カウンセラーが積極的に問題の“例外”を探す作業を行う。例外とは、問題が起こっていて当然なのに問題が起こっていないなかったり、軽減していたりする状況、

つまり適応状態を指す。CLは問題という苦悩すべき状況下にいる場合、問題の起こっていることに注目するあまり、問題の起こっていない状況に対する注目や評価はほとんどなされていない。いわば、CLが気付いていない解決を見つけようとする質問技法である。

3) スケーリング・クエスチョン

スケーリング・クエスチョンは、問題や困っていることの評価を具体的に数値化することでCLにとっての変化が明確に示されるようにするものである。スケーリングは単独で用いられるだけではなく、場面間の対比によって既に起こっている解決を明確にしたり、具体的に今よりも少し(1つだけ評価を上げる)良くなった時のイメージを引き出したり、そのための取り組みに関する意欲や自信について言及するなど、多様な利用が可能である。

4) コーピング・クエスチョン

コーピング・クエスチョンは、CLの気付いていない解決の糸口、資源を見つけるものである。どのようにして問題が起こっている状況を何とか切り抜けてきたのか、耐えてきたのかを尋ねる質問である。これまでの対処が確認された場合、うまくいっている対処についてはコンプリメントし、繰り返させることが解決につながるとされている。

各々の質問例は Table 1 に示した。

Table 1

SFA の質問例

質問技法	質問例
ミラクル クエスチョン	<p>「思ったとおりの結果が得られたとしたら、何によってそれが分かりますか」</p> <p>「あなたが思ったとおりに変わったことに、誰が気付きますか」</p> <p>「これからちょっと変わった質問をします。もし今夜あなたが眠っている間に奇跡が起きてあなたの問題が解決してしまったとします。でも、あなたは眠っていたので奇跡が起こったことを知りません。明日の朝、目が覚めた時、あなたはどんな違いから奇跡が起きて問題が解決したことに気が付くのでしょうか」</p>
例外探し	<p>「問題が起こる時とそうでない時では、どのような違いがあるのでしょうか」</p> <p>「あなたが望む状態に少しでも近いことは、最近ではどんなことがありましたか」</p> <p>「少しはましだったこと、何とかうまくやれたことはいつありましたか」</p>
スケーリング クエスチョン	<p>「現在の状態は、1 から 10 のスケールでいうと、どれくらいでしょうか」</p> <p>「1 を最低（最悪）、10 を最高（理想的）な状態として、今はどのくらいですか？」</p> <p>「最悪の時から今の状態にまでやってこられたのは、何がよかったのでしょうか」</p> <p>「スケールが 1 だけ上がったら、今とどんなところが違ってくるのでしょうか」</p>
コーピング クエスチョン	<p>「そんなに大変な中で、一体どうやってここまでやってこられたのですか」</p> <p>「どうやって状況がさらに悪化しないようにしているのですか」</p> <p>「どのような工夫をしたり、どのようなことに気を付けたりしていましたか」</p> <p>「何がよかったのでしょうか。どのようなことがあったからそれができたのでしょうか」</p>

2. SFAにおけるクライアントの類型化

1) 3タイプの定義と援助方法

このようなSFAの質問や働きかけにCLがスムーズに応答できない場合がある。そこで、SFAでは、CLと面接者の関係性を表す概念でカスタマー（顧客の意）、コンプレイナント（告訴人の意）、ビジター（訪問者の意）という3つのタイプに分けて援助している（Berg & Miller, 1992 齋藤監訳 1995）。タイプの定義と援助方法の詳細はTable 2に示した。

(1) カスタマータイプ

最も治療的効果が生まれやすいタイプである。CLは自分が困っていることを自覚しており、解決に対する期待も持っている。その上、解決を生み出すためには自分が何かの行動をすることが不可欠であると考えており、その行動をするための気力も充実している。従って、解決する期待を持っている。その上、十分に問題に対する理解がされており、変化に対する動機付けがあるタイプである。SFAの働きかけは、うまくいっていることをコンプリメントしつつ、具体的な行動が行えるような働きかけが望ましいとされている。

(2) コンプレイナントタイプ

問題に対する理解や解決の具体的イメージはあるものの、解決のための行動は自分以外の人が行うべきであると考えている。問題に関する理解はできていながらも、自分以外誰かが“解決”を作り出すべきと考えているため、直接的にCLに対してのSFAの働きかけを利用しても否定されてしまう。従って、SFA面接の初期段階ではCLとの関係で起こっている“例外”や“解決”に焦点が変わるようにすることによって、CLがカスタマータイプとして来談できるように働きかけることが望ましいとされている。

(3) ビジタータイプ

来談しながらも問題や困難に対する訴えを積極的に行わず、解決や変化に対する期待がない場合である。最も顕著な場合は、強制的に連れて来られた CL は、自分の問題に対して積極的に語ることは少ない。社会的保障が得られたり、社会的あるいは経済的理由から問題が持続している方が有効である場合など、問題があることが必要な場合である。このような場合は、CL の状況の肯定的側面を強調し、彼らの立場に則った理解を共有したことを伝え、次回以降の来談への意欲が湧くようにすることが目標とされている。

以上をまとめると、カスタマータイプは、行動をする気力が充実し、問題に対する十分な理解があり、変化への動機付けが高く、治療に乗りやすく、治療効果が生まれやすい。これに対し、コンプレイナントタイプは、解決のための行動は自分以外の人が行うべきであると考え、ビジタータイプは、問題や困難を積極的に訴えず解決や変化に対する期待がないため、いずれもカスタマータイプに比べ SFA の効果は挙げにくいとされている。

2) 類型化の問題点

このような SFA における CL の類型化は、CL の来談への動機付けに基づいた分類である。CL の応答能力あるいは SFA への親和性に基づいた CL の分類はなされておらず、CL の応答能力に応じた援助についてはいまだ検討されていない。SFA において CL が質問に応答しにくい場合、CL はどのように応答し、そこにはどのような要因が関与しているのかという点は重要な問題である。言い換えると、SFA は独特な質問技法を用いるにも関わらず、質問を投げかけられる CL の応答に注目した研究や質問に対する CL の応答の特徴を把握する方法、答えにくい CL にど

Table 2

CL と面接者の関係性のタイプ (吉川, 2002)改編

タイプ名	定義	援助
カスタマー	<p>意味：購買する意志が決まっているお客の意。</p> <p>特徴：問題や解決と自分との関わりをはっきりと意識しており，解決に向けて自分が変わることが必要であるという認識を持っている。</p>	<p>既に解決に向けてよい考えを持っていることも多いので，それが実行できるように援助する。</p>
コンプレイナント	<p>意味：不満を訴える人の意。</p> <p>特徴：問題について詳しく語り，具体的な不満を訴える。解決についての期待もある。しかし，問題は自分以外のところがあり，自分以外の人や事柄が変化することが解決に必要であると考えている。</p>	<p>CL 本人が考えるように，変化が必要と思っている人や状況に合わせて援助を始め，急速にあるいは直接的に「問題や解決に実は CL 自身が関わっている」ということを直面化させることは避ける。徐々に CL 本人に気付いてもらえるように働きかける。</p>
ビジター	<p>意味：訪問客の意。</p> <p>特徴：ただ面接に連れて来られただけで，援助を必要と感じていない。</p>	<p>とにかくカウンセリングの場に来てくれた労をねぎらい，カウンセラーとの関係作りを最優先させる。徐々に本人が援助を期待していることがないか探し直してみる。</p>

注)CL：クライアント

のような援助が必要かを明らかにした研究は見当たらない。

第3節 本研究の目的

臨床実践における解決志向的面接技法(SFA面接)とは、SFAの理論、基本的姿勢、面接方針、質問技法、CLのタイプに応じた援助など、SFAに関するすべての要素を含んだ面接方法全般を指す。本研究では、その中でも解決志向的質問技法(SFA質問技法)に焦点を当てて検討する。

本研究は、臨床的な研究法で示唆されてきたSFA面接、とりわけその質問技法の有効性と特徴について実験的な手法で実証的に検討することを第1の目的とする。そのため、大学生の進路相談場面を実験的に設定し、SFA質問技法の有効性を、最も基本的な面接技法例としてマイクロカウンセリング(Ivey & Ivey, 2003)における基本的傾聴技法(Basic Listening Skills: BLS)を取り上げ、両技法の比較を通して明らかにする。BLSの面接技法と比較してどのような特徴をもつか明らかにするため、予備実験を行う。研究1では、SFAの特徴を明らかにするため、予備実験と異なる尺度を追加し、改めてBLSの面接技法と比較検討する。さらに、研究2では、SFAのどのような特徴や性質がSFA質問技法の効果に影響を与えているのかを研究1と同様の方法で探索的に検討する。

また、個々のCLがSFAの独特な質問技法にどのように応答しているのかを簡便に把握する方法を明らかにすることを第2の目的とする。そのため、大学生の進路相談面接のデータを基に、SFAの質問に対するCL応答の質的分析を通して、CLの個々の応答を分類するためのカテゴリを抽出し、CLの応答の仕方の特徴を簡便に把握し図示する方法を提案する(研究3)。

なお、本研究では、大学生の進路相談場面を取り上げた。SFA は解決に焦点を当てるアプローチで、短期心理療法のひとつである。進路決定を迫られている学生や生徒に対して従来様々なアプローチの短期心理療法が試みられ、SFA も導入されてきた(村上, 2003; 定金, 1996)。進路相談場面で、SFA の有効性を検討することは臨床的にも理論的にも妥当と考えられる。

第2章

大学生の進路相談場面における 解決志向的質問技法の有効性の検討

第1節 基本的傾聴技法との比較からみた解決志向的質問技法の有効性（研究1）

1. 予備実験

1) 目的

SFA 質問技法が、実験参加者の職業レディネス、自己効力感及び課題の認知において BLS とどのように異なるかを明らかにするため、予備実験を行う。

2) 方法

(1) 実験計画

大学生に進路相談面接を SFA 質問技法を用いて行う群（以下、SFA 群）、同じく BLS を用いて行う群（以下、BLS 群）、及び面接を行わない統制群の3群を設け、質問紙を用いたプリテスト・ポストテスト法で効果測定を実施した。

(2) 実験参加者（以下、参加者）

A 大学3年生 326 名に質問紙による事前測定（プリテスト）を行うと共に参加者を募った。実験の目的、内容、プライバシー保護に配慮したデータの取り扱い、フィードバックの内容と方法について説明し、同意の得られた 21 名（男性 3 名、女性 18 名）を SFA 群、BLS 群、統制群に 7 名ずつ無作為に配置した。

(3) 実験期間

2003 年 5 月～8 月。

(4) 質問紙の構成

プリテスト・ポストテスト法で施行した質問紙は、以下の尺度から構成されている。①職業未決定尺度：進路相談面接の直接的効果を見るため、

下山（1986）の職業未決定尺度（39項目3件法）を使用した。質問項目は「今の状態では、自分の一生の仕事など見つかりそうもない」など。得点が高いほど職業未決定の程度が高いことを示す。②進路選択に対する自己効力尺度（以下、自己効力感尺度）：浦上（1995）の進路選択に対する自己効力尺度（30項目4件法）を使用した。質問項目は「一度進路を決定したならば、“正しかったのだろうか”と悩まない」など。得点が高いほど自己効力の程度が高いことを示す。③職業選択課題認知尺度（以下、課題認知尺度）：下村（1998）の職業選択課題認知尺度（20項目5件法）を使用した。質問項目は「職業の決定は、かなり複雑な決定だと思う」など。得点が高いほど職業選択に関する課題認知の程度が高いことを示す。質問紙は巻末に添付した。

（5）手続き

SFA群とBLS群では、隔週1回、1回30分、計5回の面接を個別に実施し、5回目の面接直後にポストテストを実施した。統制群では、プリテストの後に面接を行わず、SFA群とBLS群の終了時にポストテストを実施した。面接場所はA大学の心理教育相談室。参加者の了解を得てテープ録音された。面接は、参加者自身の進路を主題とし、参加者が自発的に語る話題に沿って進められた。SFA群、BLS群共に、面接者は筆者が担当した。面接者は、面接に先立ち、SFA及びBLSについて各々の専門家に1年間のトレーニングを受けた。また、参加者の福祉のため、実験はすべて心理療法を専門とする大学院教員の指導のもとで行われた。SFAの技法はBerg（1994）に基づき、「既に起きている解決」や「これから起こる解決」の主に行動を明らかにすることに焦点を当てた。BLSは、Ivey & Ivey（2003）に基づき、かかわり行動、開かれた質問、感情の反映、反復、明確化、要約等のマイクロ技法を用いた。BLSは、様々

なカウンセリング心理療法の基礎をなす援助的コミュニケーションの技法で、基本的かかわり技法とも呼ばれる。BLSでは、特に感情に焦点を当てた。なお、SFA面接では、SFA技法を用いるために丁寧な応答を心掛ける必要があり、Table 1に示したSFA独特の技法に加えてBLSの質問技法（但し、CLの感情の側面には焦点化しない）や要約技法も使用する。これに対し、BLS群ではCLの感情を表現させ整理する最も基本的な面接技法としてTable 1に示すBLS技法のみを用いる。

(6) 面接者の技法の妥当性・信頼性

面接者の使用した技法が確かにSFAあるいはBLSであったかどうかを確認するため、全ての面接セッションのうち、等間隔抽出法で抽出された3分間（参加者1名あたり計15分）の面接者の応答を全て逐語録に起こし、SFAあるいはBLSに該当するか分類した。BLSの分類項目はIvey & Ivey (2003)を基に作成した4項目（Table 3-1）、SFAの分類項目はBerg (1994)を基に作成した5項目（Table 3-2）であった。分類者は、面接者及び臨床心理士2名の計3名で、独立に分類を行うにあたり分類マニュアルを使用した。SFA群で抽出された面接者の全応答に占めるSFA技法の平均出現率は49.8%であった。このことから、面接者がSFA技法を十分に使用していることが確認できた。技法分類の信頼性を確認するため、中澤・大野木・南（1997）に基づき、分類者間の分類が3名とも一致した応答数を、分類の対象になった面接者の全応答数で除し、100を掛けたものを一致率とした。参加者ごとに一致率を算出したところ、53.3～78.4%であった。分類の一致しないものは協議を行い、再度一致率を求めたところ、3名の技法分類の平均一致率は96.9%であった。BLS面接についても同様の方法で検討したところ、BLSの平均出現率は100%、分類の一致率は、96.6%であった。

なお、SFA 技法の平均出現率が BLS に比べ低いのは、BLS では質問技法を含めた4技法をカウントしているのに対しSFAでは質問技法のみをカウントしているためである。SFA 技法の出現率は、SFA 技法の使用のあり方としては十分であると思われる（※）。

SFA 技法の独立分類の一致率を検討する際、事前の分類トレーニングを行うために作成したマニュアルは巻末に添付した。

※ SFA 面接では、SFA 技法を用いるために丁寧な応答を心掛ける必要があり、BLS の質問技法（開かれた質問・閉ざされた質問）や要約技法など Table 1 に示した SFA 技法に含まれない応答も出現する。つまり、SFA 面接では、BLS に含まれる質問技法や要約技法に加えて SFA 特有の質問技法を使用している。SFA 技法の平均出現率は、質問技法や要約技法に加えて SFA 技法は使われているかどうかをチェックする目的で算出し、どの程度使われていたかを全応答に占める割合で示したものである。BLS 群における BLS の平均出現率は、BLS しか使用していないことを確認するために算出した。よって、BLS と SFA 技法では、出現率を算出する目的や出現率で示される内容の性質が異なる。そのため、SFA 面接における SFA 技法の平均出現率が BLS 面接における BLS の平均出現率より低くなる。SFA 技法の平均出現率は約 40～50%であるが、しかし確実に SFA 面接では SFA 技法が使用されているといえる（BLS 面接では BLS のみ使用し、SFA 技法は使用されていない）。SFA 技法を繰り返すためには、BLS が必要であることから、SFA 技法の出現率が仮に 80%以上になると、面接者と相談者のコミュニケーションは成立しないか、あるいは違和感をもたらし、CLを混乱させる恐れがあったと考えられる。SFA 技法の出現率が一定の割合しか得られないことは、研究方法（面接実施）上、適切であると考えられる。ただし、SFA 技法の出現率は約 40～50%の出現率が相応しいのか否か、SFA 面接として最も適切で妥当な出現率は何%かについての検討は今後の課題の1つである。

Table 3-1

面接者の BLS 技法

<p>【質問技法】 Co が CL を対話に誘う技法。自由な発言を引き出しやすい「開かれた質問」，“はい・いいえ” や事実で答えられる「閉ざされた質問」がある。</p>
<p>【反復・言い換え技法】 Co が CL の用いた単語や文章をそのまま反復して返すことで，CL の話の内容を確認したり，明確にしたりする技法。CL が話したことの中で最も重要な語句を選び，話の本質を濃縮し，CL の発言を Co の言葉で言い直して伝える技法。</p>
<p>【感情の反映技法】 CL の発言に込められている気持ちや感情を汲み取って，相手に返す技法。最も基本的な感情の反映技法は，CL の発言の中にある感情を表す言葉を反復技法を用いて返すこと。また，Co が CL の発言や非言語的なメッセージに込められている感情を適切な言葉を添えて返すことも，感情の反映技法に含める。</p>
<p>【要約技法】 CL の発言の内容や感情の重要な部分を CL の言葉を用いて要約して伝え返す技法。CL の思考や感情を整理したり統合したりするのを助けると共に，Co 側の理解に歪みがないかどうかを CL に吟味してもらう狙いがある。また，CL が話してきたことの重要な部分を短く具体的に繰り返して CL に伝える技法でもある。</p>

注) Co : カウンセラー，CL : クライアント

Table 3-2

面接者の SFA 技法

<p>【例外を探す技法】 問題が起きていない(例外の)状況について質問する。例外とは、問題が起きているのに問題が起きていなかったり、問題が軽減していたりする状況である。CLは問題という苦悩すべき状況下にいる場合、問題の起きていることに注目するあまり、問題の起きていない状況に対する注目や評価はほとんどなされていない。いわば、CLが気付いていない解決を見つけようとする質問技法。 「あなたが望む状態に少しでも近いことは、最近ではどんなことがありましたか」 「問題が起こる時とそうでない時では、どのような違いがあるのでしょうか」 「少しはましましたこと、何とかうまくやれたことはいつありましたか」</p>
<p>【スケールで聞く技法】 CLの観察、印象、予測などを1最低(最悪)~10最高(最良)の尺度で尋ねる技法。直感的なままで整理されていないCLの経験を数値で表現させる。また、CLの挙げた数値によって今後の見通しを得る。問題や困っていることの評価を具体的に数値化することでCLにとっての変化が明確に示されるようにするものである。 「現在の状態は、1から10のスケールでいうと、どれくらいでしょうか」 「1を最低(最悪)、10を最高(理想的)な状態として、今はどのくらいですか」 「スケールが1だけ上がったなら、今とどんなところが違ってくるのでしょうか」</p>
<p>【解決の結果を聞く技法】 CLの希望に沿って問題が解決した未来を仮定して、問題の解決の結果について質問する技法。もう既に問題がなくなった将来のことを想像するように方向付け、CLの目標とする解決のイメージを作る技法。面接の目標設定にもなる。 「問題が解決したとしたら(思ったとおりの結果が得られたとしたら)何によってそれが分かりますか」 「あなたが思ったとおりに変わったことに、誰が気付きますか」 「これからちょっと変わった質問をします。今夜あなたが眠っている間に奇跡が起きてあなたの問題が解決してしまっただとします。でも、あなたは眠っていたので奇跡が起こったことを知りません。明日の朝、目が覚めた時、あなたはどんな違いから奇跡が起きて問題が解決したことに気付くのでしょうか」</p>
<p>【対処を聞く技法】 今までの対処法や例外の状況でどうやってそれが維持されたのか、今後どのように対処するかについて尋ねる技法。今までやってきた(これからやりたいと思う)具体的方策の有無や内容を尋ねることも“対処を聞く技法”に含む。 「どうやって状況がさらに悪化しないようにしているのですか」 「どんな工夫をしたり、どんなことに気を付けたりしていましたか」 「何がよかったのでしょうか。どんなことがあったからそれができたのでしょうか」</p>
<p>【賞賛】 CLがやっていることでうまくいっていることについて、CLの努力や意欲をポジティブに評価し確認する。CLの行動に敬意を表し、評価すること。CLがやっていることでうまくいっていることについて、CLの努力や意欲をポジティブに評価し確認する。賞賛には直接的と間接的の2種類がある。直接的とは、肯定的評価、世間一般の「褒める」と同義。相手に対して直接的によい評価を伝えること。肯定的反応、「ほー」「へー」といったいい意味での驚きや賞賛を示す反応。間接的とは、CLの何か肯定的なものを含んで賞賛すること。</p>

注) CL: クライアント

3) 結果

プリテスト・ポストテストの 2 時点における 3 群の尺度得点の平均値と標準偏差及び検定結果を Table 4 に示した。

(1) 3 群の等質性

3 群の対象者が均等に分かれているかを検討するため、3 群の全 3 尺度のプリテスト得点について 1 要因 3 水準の分散分析を行ったが、有意な差は見られなかった。従って、3 群は、ほぼ均等に分けられたと考えられる。

(2) 面接の効果

変化量を従属変数、プリテスト得点を共変量とした共分散分析を行った結果、群間に有意な差は見られなかった。但し、BLS 群では、自己効力感尺度において、統制群との間に有意な差が見られ、BLS 群については、面接を行った効果はあったと考えられる。

(3) SFA 群と BLS 群の比較

SFA 群と BLS 群の群間で各尺度の変化量に違いがあるか検討したところ、どの尺度でも群間に有意な差は見られなかった。あえていえば、自己効力感尺度で、BLS 群が統制群よりも有意に変化量が大きかった。以上より、面接を行った効果や面接技法による違いは明らかにならなかった。

Table 4

プリテスト・ポストテストの2時点における3群の尺度得点の平均値,
標準偏差及び検定結果(予備実験)

	群	<i>n</i>	プリ テスト	ポスト テスト	<i>F</i> 値 注)
職業未決定尺度	SFA	7	80.3 (9.03)	67.7 (9.34)	<i>F</i> (2,17)= 1.29
	BLS	7	81.3 (7.61)	70.6 (7.48)	
	統制	7	77.1 (8.90)	74.0 (14.78)	
進路選択に対する 自己効力尺度	SFA	7	67.6 (9.59)	76.4 (11.09)	<i>F</i> (2,17)= 2.34 AL>統制*
	BLS	7	68.7 (9.81)	81.4 (12.18)	
	統制	7	66.4 (15.87)	70.1 (17.36)	
職業選択課題認知尺度	SFA	7	75.1 (6.96)	67.9 (5.40)	<i>F</i> (2,17)= 1.22
	BLS	7	75.7 (8.30)	70.3 (7.57)	
	統制	7	73.6 (12.20)	72.0 (6.93)	

注)表内の *F* 値は, 変化得点(ポストテスト-プリテスト)に関する3群間比較の結果である。

()標準偏差. **p*<.05

(4) 考察

予備実験の結果から、SFA と BLS の面接技法による違いはないとされるのかもしれない。しかし、尺度得点や変化量を見ると、統計的に有意ではないものの、群間の違いが窺えた。予備実験で用いた尺度では、2つの技法の違いを捉えきれず測定することが難しかった可能性も考えられた。よって、研究1では、探索的に変数や尺度の検討を行った。また、統制群については、少ない標本数ではわずかな個人差が大きく影響を与えることから、研究1では安定した統制群を得るため、面接を行わない全学生から無作為抽出し、統制群とする。

2. 研究1

1) 目的

SFA 質問技法が、参加者の職業レディネス、自己効力感、課題の認知、結果期待感、進路探索行動において BLS とどのように異なるかを明らかにするため、予備実験と異なる尺度を追加し、改めて BLS 群と比較検討する。

2) 方法

(1) 実験計画

予備実験と同様。

(2) 参加者

予備実験と同様、実験協力を募り、同意の得られた 14 名（男性 3 名、女性 11 名）を SFA 群と BLS 群に 7 名ずつ無作為に割り当てた。面接を行わない学生のうちデータに不備のあった者を除いた 156 名から 7 名を無作為抽出し統制群とした。

(3) 実験期間

2004年10月～2005年1月。

(4) 質問紙の構成

プリテスト-ポストテスト法で施行した質問紙は、以下の尺度から構成されている。①職業レディネス尺度：予備実験で使用した職業未決定尺度に対して、進路相談面接の直接的効果をより把握するため、下村（1998）の職業レディネス尺度（15項目5件法）を使用した。質問項目は「自分のつきたい職業の範囲はかなり絞れている」など。得点が高いほど職業レディネスの程度が高いことを示す。②自己効力感尺度：予備実験で使用した自己効力感尺度に対し、より広い概念の効力感の自己評価を把握するため、安達（2001）の進路選択に対する自己効力尺度（10項目5件法）を使用した。質問項目は「職業生活で何を重要視するかを明確にする」など。得点が高いほど自己効力の程度が高いことを示す。③課題認知尺度：予備実験と同様。研究1では新たに以下を追加した。④進路選択に対する結果期待尺度（以下、結果期待尺度）：安達（2001）の進路選択に対する結果期待尺度（4項目5件法）を使用した。質問項目は「自分の興味や能力を理解すれば、よりよい職業選択ができるだろう」など。得点が高いほど結果期待の程度が高いことを示す。⑤進路探索行動尺度：安達（2001）の進路探索行動尺度（12項目5件法）を使用した。質問項目は「就職セミナーや企業説明会に参加する」など。得点が高いほど進路探索行動を行ったことを示す。質問紙は巻末に添付した。

(5) 手続き

予備実験と同様。

(6) 面接者の技法の妥当性・信頼性

予備実験と同様の方法で行った結果、SFA面接におけるSFA技法の

平均出現率は 50.9%，参加者ごとに一致率を算出したところ，56.3～80.4%であった。分類の一致しないものは協議を行い，再度一致率を求めたところ，3名の技法分類の平均一致率は 95.5%であった。BLS 面接についても同様の方法で検討したところ，BLS の平均出現率は 100%，分類の一致率は 96.2%であった。

3) 結果

プリテスト・ポストテストの 2 時点における 3 群の尺度得点の平均値と標準偏差及び検定結果を Table 5 に示した。

(1) 3 群の等質性

3 群の対象者が均等に分かれているかを検討するため，3 群の全 5 尺度のプリテスト得点について 1 要因 3 水準の分散分析を行った結果，いずれの尺度においても有意な差は見られなかった。従って，3 群はほぼ均等に分けられたといえる。

(2) 面接の効果

変化量を従属変数，プリテスト得点を共変量とした共分散分析を行った結果，職業レディネス尺度で群間に有意な差が見られ，面接の効果が認められた(統制群<SFA 群，BLS 群)。SFA 群では，課題認知尺度，結果期待尺度，進路探索行動尺度の複数の測度で，BLS 群では職業レディネス尺度で，統制群との間に有意な差が見られ，両群とも面接を行った効果はあったと考えられる。

(3) SFA 群と BLS 群の比較

SFA 群と BLS 群の群間で各尺度の変化量に違いがあるか検討したところ，結果期待尺度及び進路探索行動尺度で群間に有意な差が，課題認知尺度で有意傾向が見られた。よって，SFA 群は BLS 群に比べ，結果期待を有意に高め，進路探索行動を有意に増加させ，職業選択課題の認

Table 5

プリテスト・ポストテストの2時点における3群の尺度得点の平均値,
標準偏差及び検定結果 (研究1)

	群	<i>n</i>	プリ テスト	ポスト テスト	<i>F</i> 値 注)	
職業レディネス 尺度	SFA	7	57.6 (4.61)	60.9 (4.67)	<i>F</i> (2,17)=4.08*	SFA, BLS > 統制*
	BLS	7	51.7 (10.58)	56.3 (9.43)		
	統制	7	55.3 (5.59)	54.7 (3.82)		
進路選択に対する 自己効力尺度	SFA	7	30.4 (3.41)	31.3 (4.15)	<i>F</i> (2,17)=1.23	
	BLS	7	28.3 (7.59)	30.6 (7.41)		
	統制	7	28.9 (2.67)	28.1 (2.12)		
職業選択課題 認知尺度	SFA	7	67.0 (11.21)	60.1 (8.17)	<i>F</i> (2,17)=2.97†	SFA > 統制** SFA > BLS †
	BLS	7	68.1 (6.72)	66.3 (4.35)		
	統制	7	65.6 (6.02)	65.4 (2.51)		
進路選択に対する 結果期待尺度	SFA	7	16.3 (2.06)	18.3 (1.50)	<i>F</i> (2,17)=10.60**	SFA > BLS, 統制**
	BLS	7	15.4 (2.30)	16.1 (2.12)		
	統制	7	16.7 (2.50)	16.0 (2.24)		
進路探索行動尺度	SFA	7	44.1 (3.02)	52.3 (2.36)	<i>F</i> (2,17)=14.17**	SFA > BLS, 統制**
	BLS	7	44.0 (6.22)	44.1 (8.65)		
	統制	7	39.1 (5.52)	40.0 (4.83)		

注) 表内の *F* 値は, 変化得点(ポストテスト-プリテスト)に関する3群間比較の結果である。

() 標準偏差. ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

知をポジティブに変化させる傾向があることが分かった。この結果は、結果期待尺度については市川（2005）と若島・佐藤（1999）、進路探索行動尺度については村上（2003）、課題認知尺度については小関・中野（2000）と宮田（1997）と一致した。なお、職業レディネスや自己効力感については、両群に有意な差がなかったことから SFA 特有の効果は明らかにならなかった。

（4）考察

認知の変化の背景には、SFA の質問技法の影響が考えられる。小関・中野（2000）や宮田（1997）は SFA の質問がものの見方に働きかけ変化を引き起こす重要な手段になっていると述べている。さらに小関（1996）は質問によって CL の従来の認知や問題の定義が一旦棚上げされ、新たな意味が構成されると述べている。従って、SFA 面接によって、職業選択という課題の認知に何らかの変化が生じたと推察される。

SFA 群では BLS 群に比べ進路選択に対する結果期待が有意に高くなった。市川（2005）や若島・佐藤（1999）によれば、SFA は質問の前提が一貫して肯定的であることから、原因追求から解決構築へと CL の発想の転換を生じさせ易くし将来像や目標達成後をポジティブにイメージさせる、と述べているが、この点と結果期待の向上が関連しているのかもしれない。

SFA 群では BLS 群に比べ進路探索行動が有意に増加した。これは、村上（2003）の SFA による解決像の形成によって自己投入といった行動を容易にするという指摘に関連しているのかもしれない。宮田（1992）や中西（2000）によれば、目標設定が目標達成という期待を作り上げると述べていることから、この点が進路探索行動の増加と関連していると推測される。

Sundstrom (1993) や Littrell, Malia, & Vanderwood (1995) は、SFA と問題志向アプローチを比較し、面接効果においてアプローチの違いが認められなかったと指摘している。本研究においても、自己効力感については予備実験と同様、面接者の面接技法による相違は明確にはならなかった。従って、本研究からは、自己効力感を高める効果は SFA のみの特質であるとは言い難い。

予備実験と研究 1 の結果の違いは、次のように考えられる。第 1 に、研究 1 の実験時期は就職活動がまさに開始される時期であり、面接参加者の問題意識、意欲、動機付けが高かった可能性が考えられる。第 2 に、面接者の経験、習練度が高まっていたことが考えられる。第 3 に、測定する尺度に問題があった可能性がある。研究 1 で用いた尺度が面接技法による違いを測定する十分な尺度であるかは、今後も検討を重ねる必要がある。

研究 1 では、予備実験とは異なり、SFA の面接技法による面接参加者の変化を捉える変数として、職業選択課題認知、進路選択に対する結果期待、進路探索行動が示唆された。しかし、SFA のどのような特徴によってこれらの変数に影響が及ぼされるのかは明らかではない。そこで、研究 1 で用いた尺度で面接技法による違いが一応確認できたことから、これらの尺度を用いて SFA のどのような性質や特徴が作用するか研究 2 で検討した。

第 2 節 解決志向的質問技法の有効性と志向性との関連—未来志向と現在志向の比較— (研究 2)

1. 目的

SFA の質問技法について、2つの方向性があるとされている。千葉（1999）によれば、SFA は過去のポジティブな行動への焦点付けと未来のポジティブな行動の連鎖を想起させる。遠山（1998）は、SFA 面接では将来や未来のことについてイメージ形成をする仮説的側面と現実に行き起きていることに目を向ける達成的側面とが同時並行していくと指摘している。さらに小関（1998）は、既にある解決を尋ねる質問と未来の解決を尋ねる質問と2つの領域に分けられると指摘している。このように SFA の質問技法には、将来、未来と過去、現在という2つの方向性があることが指摘されている。SFA は解決に焦点を当てて、将来、未来と過去、現在の2つの方向性で問うているが、どちらの志向性の質問技法がどのように効果的なのか、質問技法によって効果の違いや特徴が見られるのか、研究2では、研究1と同じ尺度を用い、SFA の質問の志向性（未来、現在）による違いを比較検討する。

2. 方法

1) 実験計画

大学生に進路相談面接を SFA の未来志向の面接技法で行う群（以下、SFA1 群）、同じく SFA の現在志向の面接技法で行う群（以下、SFA2 群）、研究1と同様 BLS 群、統制群の4群を設け、質問紙調査をプリテスト・ポストテスト法で施行した。

2) 参加者

研究1と同様、実験協力を募り、同意の得られた25名（男性4名、女性21名）を SFA1 群と SFA2 群に8名ずつ、BLS 群に9名を無作為に割り当てた。面接を行わない学生のうちデータに不備のあった者を除いた116名から9名を無作為抽出し統制群とした。

3) 実験期間

2005年5月～8月。

4) 質問紙の構成

研究1と同様。

5) 手続き

研究1とほぼ同様であった。面接者の面接技法について。SFA1, SFA2の面接技法は、遠山(1998), 小関(1998), 千葉(1999)に基づいた。SFA1では、これから起こる解決や行うであろう行動を明らかにすることに焦点を当てた。SFA2では、既に起きている解決や行った行動を明らかにすることに焦点を当てた。

6) 面接者の技法の妥当性・信頼性

研究1と同様の方法で行った。SFA1群におけるSFA技法の平均出現率は39.8%, 分類者間の分類の一致率は94.4%, SFA2群におけるSFA技法の平均出現率は39.5%, 分類者間の分類の一致率は93.1%であった。このことから、面接者がSFA技法を十分に使用していることが確認できた。BLS群におけるBLSの平均出現率は100%, 分類者間の分類の一致率は95.4%であった。なお、研究2においても研究1と同様、分類者間の分類の一致率は参加者によって57.1～84.3%であった。不一致の場合は協議を行った。

3. 結果

プリテスト・ポストテストの2時点における4群の尺度得点の平均値と標準偏差及び検定結果をTable 6に示した。

Table 6

プリテスト・ポストテストの2時点における4群の尺度得点の平均値,
標準偏差及び検定結果(研究2)

	群	n	プリ テスト	ポスト テスト	F値	注)
職業レディネス 尺度	SFA1	8	50.5 (4.69)	63.1 (1.96)	$F(3,29)=26.69^{**}$	SFA1,SFA2,BLS>統制** SFA1,SFA2 >BLS*
	SFA2	8	52.5 (1.93)	64.3 (1.83)		
	BLS	9	51.4 (4.03)	59.7 (1.94)		
	統制	9	50.9 (9.61)	51.4 (9.23)		
進路選択に対する 自己効力尺度	SFA1	8	26.1 (4.26)	29.7 (1.83)	$F(3,29)=5.54^{**}$	SFA1 >統制* SFA2 > BLS,統制**
	SFA2	8	29.5 (3.34)	33.1 (2.10)		
	BLS	9	29.1 (3.89)	30.1 (2.47)		
	統制	9	27.9 (4.51)	28.4 (4.86)		
職業選択課題 認知尺度	SFA1	8	65.4 (7.89)	66.0 (5.26)	$F(3,29)=.47$	
	SFA2	8	64.1 (4.91)	62.9 (5.84)		
	BLS	9	64.6 (7.86)	65.9 (8.28)		
	統制	9	64.3 (5.98)	64.1 (4.53)		
進路選択に対する 結果期待尺度	SFA1	8	13.5 (1.51)	16.4 (1.06)	$F(3,29)=.85$	
	SFA2	8	14.5 (1.07)	17.4 (.92)		
	BLS	9	14.3 (.71)	16.2 (1.09)		
	統制	9	15.9 (2.08)	17.2 (2.90)		
進路探索行動尺度	SFA1	8	37.8 (5.04)	51.0 (2.33)	$F(3,29)=22.02^{**}$	SFA1,SFA2,BLS>統制** SFA1 >BLS* SFA2 >BLS†
	SFA2	8	39.8 (2.38)	50.9 (3.60)		
	BLS	9	40.9 (4.51)	48.2 (1.72)		
	統制	9	36.4 (7.85)	37.9 (7.49)		

注) 表内のF値は、変化得点(ポストテスト-プリテスト)に関する4群間比較の結果である。

()標準偏差. ** $p<.01$ * $p<.05$ † $p<.10$

(1) 4群の等質性

4群の対象者が均等に分かれているのか検討するため、4群の全5尺度のプリテスト得点について1要因4水準の分散分析を行ったが、いずれの尺度でも有意な差は見られなかった。従って、4群はほぼ均等に分けられたといえる。

(2) 面接の効果

研究1同様、変化量を従属変数、プリテスト得点を共変量とした共分散分析を行った結果、職業レディネス尺度、進路探索行動尺度において群間に有意な差が見られ、面接の効果が認められた(統制群<SFA1群, SFA2群, BLS群)。SFA1群とSFA2群では、自己効力感尺度で、BLS群では職業レディネス尺度と進路探索行動尺度で、統制群との間で有意な差が見られ、SFA1群、SFA2群、BLS群共に面接の効果が認められた。

ところで、研究1と研究2のBLS群は、実験手続き上、同様の操作を行ったにも関わらず、結果に違いがあった。研究1のBLS群では、職業レディネス尺度でのみ効果が見られたのに対し、研究2のBLS群では、職業レディネス尺度に加えて、進路探索行動尺度でも有意な差が見られた。この違いはどのような変数によるのか、本研究では明らかでなく、例えば面接者の熟練度の関与など、今後さらに検討する必要がある。

(3) SFA群における質問技法間の比較

SFA1群とSFA2群の群間で各尺度の変化量に違いが見られるか検討したが有意な差はほとんど見られなかった。あえていえば、自己効力感尺度で、SFA2群がBLS群よりも有意に変化量が大きかった。また、進路探索行動尺度で、SFA1群の変化量はBLS群より有意に大きく、SFA2

群と BLS 群の群間に有意傾向が見られた。

4. 考察

本研究では、SFA1 群と SFA2 群の違いは明らかにならなかったが、質問の志向性と SFA の有効性との関連については、今後は、参加者数を増加させた上で再検討する必要がある。

自己効力感尺度では、SFA2 群と BLS 群の群間に有意な差が見られた。小関（1998）によれば、SFA2 のような現在志向の質問で例外を探し出し、例外が起こっていた時の様子を尋ね情報収集を行うことは、変化を起こす能力と責任が自身にあるという前提を伝えることになり、自尊心や解決への意欲を高めるといふ。この指摘は未来志向の質問との比較で言及されていないが、研究 2 の結果は、先行研究の指摘を支持する結果とはならなかった。

本研究からは、SFA1 群と SFA2 群の違いは見られなかった。本研究では、面接技法を SFA 質問や応答の志向性から SFA1 と SFA2 に分け、各々独立に機能するという仮説のもと行った。しかし、質問の志向性の違いという働きかける手段は違っても、働きかけている目的や本質的な部分に違いがなかったと考えることもできる。その場合、SFA1 も SFA2 も同様の効果があったといえるのかもしれない。研究 2 の結果からは、質問の志向性だけでは、SFA の何がどのように作用しているのかを明らかにすることは難しい。本研究で取り上げた質問の志向性だけでなく、SFA 質問の目的や質問の背景、タイミングなど、他の変数と SFA の有効性との関連を検討することも必要である。

本研究において、未来志向技法と現在志向技法の 2 つを比較したが、どちらの技法が有効かを検討するためではなく、SFA のどのような特徴

や性質が面接の効果に影響を与えているのかを明らかにすることが目的であった。結果的に、両者に有意な差がなく、未来、現在といった質問の志向性はSFAの有効性を説明するものではない可能性も考えられる。

なお、SFAの面接場面においては、特定の質問技法だけが独立して作用するのではなく、いくつかの質問の組み合わせや面接の流れなど様々な要因が関与していると考えられるため、特定の技法の有効性については、慎重に検討しなければならないと考える。

また、自己効力感尺度では、SFA2群は統制群よりポストテスト時に自己効力感が低くなった。このことから、SFAのネガティブな効果や影響があるのではないかと考えられる。その背景として、例えば、SFA質問は独特で答えにくい面があり、参加者によっては面接への動機付けが下がったり、答えられなさによって解決への意欲が低下したのではないかと推測される。しかし、この点については本研究のデータのみでは明らかではなく、詳細に検討しなければならない。

第3節 クライアント応答の把握方法と図示の試み—グラウンデッド・セオリー・アプローチによる質的分析—（研究3）

1. 目的

SFAの質問に対してCLがどのように応答するのかを簡便に把握するための方法を検討する。具体的には、研究1で面接者が最も多く用いた「未来の解決を聞く質問（未来志向の質問）」に対する参加者の回答を取り上げ分析する。この質問は、CLにとって現在抱えている問題が将来解決した時、解決している状態やその時の様子を尋ね、詳しく具体的に語られるよう促す質問である（小関, 1998）。

2. 方法と結果：カテゴリ抽出

1) データ収集

上記の目的のため、参加者の応答を質的に分析し、参加者の個々の応答を分類するカテゴリを抽出する。研究1のSFA群のデータを使用した。

2) データ分析

(1) 分析方法の選択

質的研究法は、未開分野の探索的研究において有効であると認められており（能智, 2000）、本研究のように先行研究の少ない主題に関する探索的研究にはふさわしい方法である。本研究では、「SFAによる質問を投げかけられて面接参加者はどのように応答するか」というリサーチ・クエスチョンを探求するため、会話データをできるだけそのままの形で分析にのせるグラウンデッド・セオリー・アプローチ（Strauss & Corbin, 1990: 以下, GTA）を用いた。GTAでは、データから帰納的に理論を導く手法として、手続きが明確に定められている。また、カテゴリ化の際には、分析ワークシートを用いた修正版GTA（木下, 2003）の手法を取り入れた。

(2) 分析のプロセス

①**分析資料** 分析資料は、面接のテープ録音から作成した逐語記録である。本研究では、前述したように、様々なSFA質問の中でも「未来の解決を聞く質問」に焦点を当てて分析した。「未来の解決を聞く質問」に対する参加者の応答箇所を抜き出し、分析データとした。分析データ数はTable 7のとおりである。②**カテゴリの生成過程** GTAでは、分析者の主観が分析の道具として利用される。そこで分析者（筆者）がどのような過程をたどって分析を進めたかを結果で記述する。

3) カテゴリの抽出

(1) 概念のラベル付け

応答データを抽象化する最初の過程として、応答を意味内容のまとまりで区切り、「概念」のラベル付けを行った (Table 8)。

概念は応答データから直接導かれたものであり、次に生成するカテゴリの構成要素となる。ここで分析者が立てた問いは、「質問に対する応答として、この応答はどのように答えているか」である。解釈が恣意的に進まないように、その概念で説明できることは他にどのような場合があるかを考え、同じような例がその面接参加者のデータの他の箇所にも豊富にあるかをみる類似比較を行った。また、その概念とは反対の場合は何かを考え、対極例が豊富にあるかをみる対極比較も行った。このような比較分析を継続して行い、解釈、定義、概念名を検討し、具体例と共に分析ワークシートに記入した (Table 9)。(すべてのワークシートは巻末に添付した。) この過程で、別の解釈や他の概念との関連など考え付いたことは、理論的メモとして書き留めた。

(2) カテゴリへの統合

上記の手続きによって導かれた「概念」を整理し、共通するものをまとめ、「カテゴリ」へ統合した。ここで分析者が立てた問いは、「これらの概念の中で、質問に対する答え方の観点として、共通しているのはどれか」である。カテゴリ統合の過程の一部を Table 10 に示す。Table 10 に示した概念は実際のごく一部であるが、実際の分析においては数多くの概念を1つのカテゴリにまとめた。

(3) カテゴリの修正・検証

以上の分析では、最も応答数の多かった参加者の A のデータを用いて 13 の暫定的な応答カテゴリを生成した。続いて、分析者はそれらの応答カテゴリを新たに他の参加者のデータに当てはめうまく説明できるかど

Table 7

「未来の解決を聞く質問」の応答数

参加者	面接回					計
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	
A	1	5	9	10	2	27
B	0	4	5	5	2	16
C	1	6	10	4	3	24
D	2	4	8	2	0	16
E	2	4	8	2	2	18
F	2	6	0	3	0	11
G	1	2	2	5	5	15

Table 8

概念のラベル付けの例

会話データ	「概念」
<p>T: 自分の中での理想的な先生像は？</p> <p>C: 1人1人, 平等に皆と接することができるっていうのと, ちゃんと余裕を持って, クラスの皆のことを考えられるとか。あとは, 事務的なこととかをきちんとちゃんとやるっていう感じで。あとは仲良くできるとか。</p>	<p>羅列的列挙 具体的 適切</p>
<p>T: 友達との関係もよくなったら, 他にどんな変化が起こると思いますか？</p> <p>C: 不安がなくなったら..., いろいろ充実してくるかなと思いますけど。時間をちゃんとうまく使わないといけない分, 他のこともキッチリできるようになってくるんじゃないかなって。</p>	<p>不明確 前向き 感情と行動</p>

Table 9

分析ワークシートの例

概念 5	関連性
定義	質問に対する答えとして、答えた事柄に関連を持たせて答えたかどうか。(羅列的に関連しない事柄を並べる答え方。)あるいは、他の面への影響性などを考慮した答え方。
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・理想的な先生の態度や行動【関連していない事柄を羅列的に答えた。】 ・不安がなくなり、計画的に過ごす。【気持ちのレベルと行動のレベルの変化で答えた。】 ・友人とよりよい関係でいられる。【自分の行動の改善が他の場面へも波及すると答えている。友達との関係も安定する。】 ・気持ちの前向きに変化する。【順々に起こりそうな変化を答えている。それぞれの変化に相互に関連を持たせながら答えている。】 ・ダラダラしないで将来の話をする。【質問の前半部分の仮定にだけ乗って答えた。複数の変化を答えた。独立してて関連性はない。】 ・他の勉強をしたり、新聞を読むようになる。【質問の仮定に乗っている。他の面への波及効果について、例を挙げて答えた。】 ・就職活動の下準備、自分を分析する。【すぐ目の前にあるこれからしたいことを、順を追って、具体的に答えている。】 ・文章力や読解力。【羅列的に答えた。】
理論的メモ	<p>順を追って予想したり、他の場面へも波及するなど、イメージの流れがスムーズ。</p> <p>羅列的な答え方では、関連を持たせておらず、1つ1つが独立している。</p> <p>情緒的な面と行動的な面との関連を持たせて答えている。</p>

うか、先に作った概念の有効性を確認し検討したが、カテゴリの修正の必要性は認められなかった。

(4) 最終的なカテゴリの選択

ここでの問いは「参加者の応答のうち、多くの参加者に共通するのは何か」である。比較的共通性の少ないカテゴリは、本研究の範囲を超えていると判断して除外し、6つのカテゴリ（仮説設定性、適切性、具体性、想像性、関連性、意欲性）が採用された。

3. 方法と結果：カテゴリを用いた応答の評定

1) カテゴリによる評定方法

参加者の特徴（個人差）を明らかにする為、「未来の解決を聞く質問」に対する面接参加者の各応答について、6カテゴリ（仮説設定性、適切性、具体性、想像性、関連性、意欲性）、4件法（1：答えていない～4：答えられた）で評定した。評定段階ごとに評定理由や評定例として3つの具体例を挙げて作成した評定基準一覧表に基づき、各応答を評定した。評定基準一覧表の一部を Table 11 に示す。（評定基準一覧の全容は巻末に添付した。）

評定の信頼性を確認するため、分析者と臨床心理士2名の計3名で評定の一致率を算出する方法をとった。評定者間の一致数を全評定数で除し100を掛けたものを一致率とした。一致しないものは協議を行い、協議で納得されたものまで含めた3名の一致率は、89.1%であった。従って、分析者の評定は妥当であったといえる。

2) 評定結果の図示の試み

上記の方法で評定した結果を簡便に提示する方法を検討した。

Table 10

カテゴリへの統合の例

「概念」の代表例	統合された「カテゴリ」
具体的 漠然 曖昧 抽象的 明瞭	→ 具体性
感情と行動の関連 羅列的列挙 関連付け	→ 関連性
前向き 意欲的 主体的 情緒 積極的	→ 意欲性

Table 11

評定基準 —「関連性」の評定例（省略し一部のみ記載）—

<p>評定 1</p>	<p>関連させようのない話をした場合や、1つの話しかしない場合のように、関連性のある話をしない答え方。</p> <hr/> <p>【1つの話しかしない例】なんか、すごい、頑張り出したとか、何かを、それに関する勉強とか。なんか、それに必要なことを頑張り出したりそれで分かるんじゃないかなとか。</p>
<p>評定 2</p>	<p>結びつきの弱い関連しない事柄を羅列的に並べた答え方。関連を持たせず個々の事柄が独立した答え方。2つの話をするが関連が乏しい。羅列的。</p> <hr/> <p>【羅列的な答え方の例】1人1人、平等に皆と接することができるっていうのと、ちゃんと余裕を持って、クラスの皆のことを考えられるとか。あとは、事務的なこととかをきちんとちゃんとやるっていう感じで。あとは仲良くできるとか。</p>
<p>評定 3</p>	<p>答えた事柄の関連性やつながり、関連付けが弱い。順序付けているが、意識を持ってやっていない（関連付ける言葉を使って答えていない）。</p> <hr/> <p>【他の面への影響を考慮するも弱い例】例えば、会社に入るかもしれないですけど、そういう時にも同じ場面があるかもしれないし、先生になったとしても先生同士ですることもあるかもしれないし。そういう時にうまくやれる人になりたいなって。</p>
<p>評定 4</p>	<p>順序立てて想像したり、他の面への影響を考慮して答える。答えた事柄に関連を持たせて答える。関連付ける言葉を使って答えている。</p> <hr/> <p>【順序立てて想像し答えた例】まず、実感として、また一歩段階進んだなっていう今までと違う実感が出てくると思うんですよ。で、その後にもちろんそれに伴って、頑張るぞって期待も大きくなると思う。</p>

3) カテゴリを用いた応答の評定

参加者の各応答を、6カテゴリについて、4件法で評定し、全応答の評定値をカテゴリ別に単純加算した。ロールシャッハ・テストのスコア結果をヒストグラムで表すように、グラフ化した結果、7人の参加者のうち、最もよく答えられたのはAであり、最も答えられなかったのはFであった (Figure 1-a, 1-b)。そこで、カテゴリ別にAとFの評定平均値を求めた結果、どのカテゴリにおいてもAはFよりよく答えられたといえる (Figure 2)。

4. 考察

1) CLの応答の仕方を図示する試み

本研究では、SFAの質問に対する参加者の応答の特徴を明らかにするため、GTAを用いてカテゴリを抽出した。さらに、抽出されたカテゴリで、参加者の応答を4件法で評定し、グラフ化するという方法を試みた。SFAの実践においてCLの応答の特徴を視覚的に捉えるのに役立つことを意図してグラフ化した。その結果、7人の参加者のうち、最もよく答えられたのはAであり、最も答えられなかったのはFであったことが同定でき、AとFの応答の特徴や違いがひと目で捉えられた。さらに、平均評定値から見ても、その違いは明らかであった。この結果は、面接者が面接の時に感じた印象を端的に示している。従って、答えにくい参加者という面接時の印象で留まらず評定によって同定し、それにより答えにくい参加者への援助法を検討できるのではないかと考えられる。

ただし、評定方法について改善の余地がある。特に、今回は面接をテープ録音したものを逐語記録化し、評定を行ったが、手続きが煩雑である。今後は、録音テープを聴いて評定する簡便法の開発が必要である。

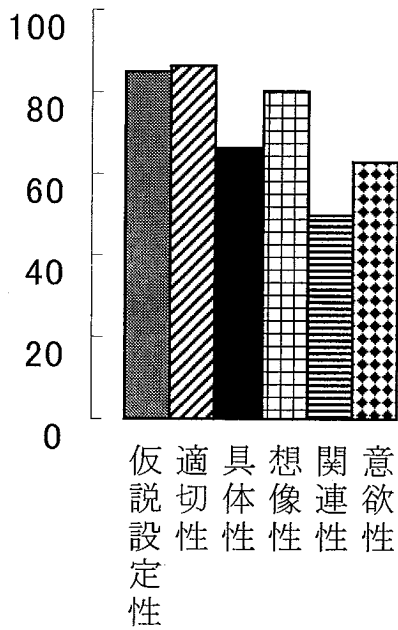


Figure 1-a 参加者 A の評価結果

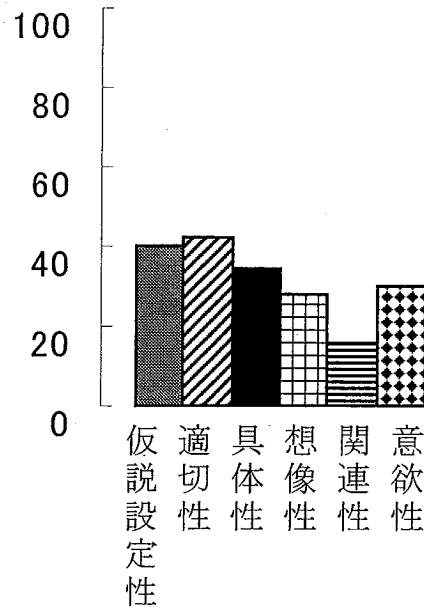


Figure 1-b 参加者 F の評価結果

数値：参加者の各応答を，6カテゴリについて，4件法（1：答えていない～4：答えられた）で評定し，全応答の評定値をカテゴリ別に単純加算した値

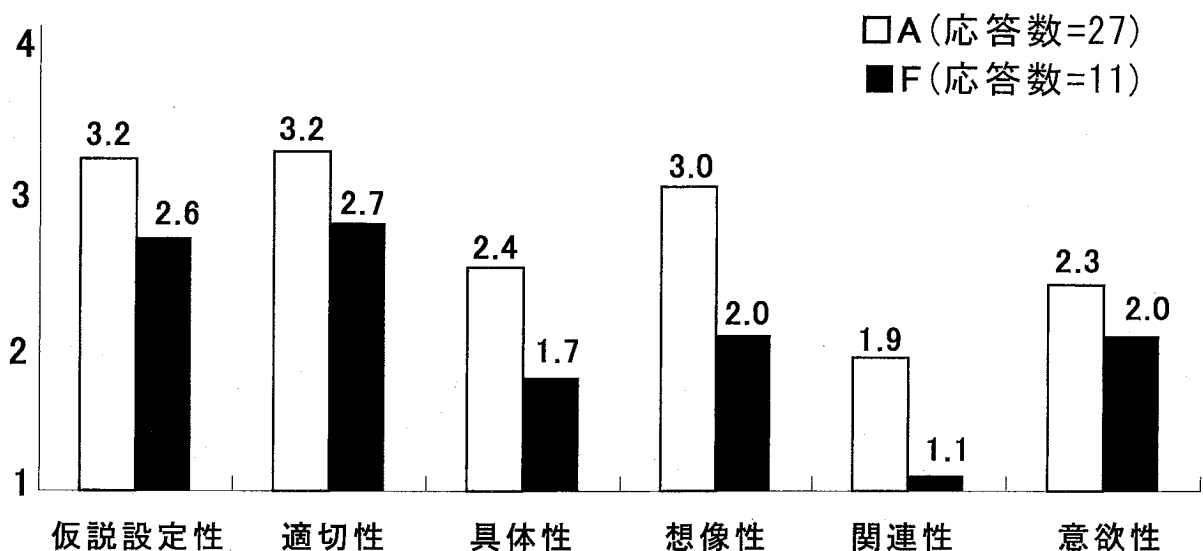


Figure 2 参加者 A と F のカテゴリ別平均評定値の比較

数値：参加者の全応答を 4 件法（1：答えていない～4：答えられた）で評定した平均値

※Figure 2 の見方

参加者 A は F に比べ、応答数が多い。応答数の差による合計評定値の影響を軽減するため、各カテゴリの平均評定値を示した。参加者 A は 6 カテゴリ全体的に平均評定値が高く、他のカテゴリとの関係で見ると「想像性」が高いことから、想像を豊かに膨らませて答えることが分かる。参加者 F は全体的に平均評定値が低く、参加者 A と異なり「想像性」は低い。

評定カテゴリそのものや評定基準なども、実用化に向けてさらに改善する必要がある。

2) 3段階及び各カテゴリの検討

本研究では、SFA 質問の応答の特徴を捉える 6 カテゴリが抽出された。6 カテゴリの定義と、ある SFA の未来志向の質問に対して各カテゴリで最も低くあるいは高く評定される場合の回答例を Table 12 に示した。また、この 6 カテゴリは 3 つの段階に分類できると考え、これを応答モデル (Figure 3) で示した。以下では、各段階に含まれるカテゴリを説明した上で、CL が質問に回答しやすくするための実践上の工夫について考察した。

(1) 第 1 段階及びカテゴリ:「仮説設定性」

第 1 段階は、肯定的な状況や問題の解決といった設定を受け入れられるかどうかという段階で、それを評価するカテゴリは「仮説設定性」である。SFA 質問に答えるには、質問内容に含まれる肯定的な事態の設定を受け入れることが必要である。設定する肯定的な事態は奇跡であり、奇跡後の生活について考えるよう促すことは、因果関係の詮議から離れて考える新しい視点を与えていることにもなる (DeShazer, 1991)。それは、現在の状態や問題に執着せずに離れられることを意味し、自己の認知を変えることや新たな観点を受け入れる柔軟性が求められる。現実や問題から一時たりとも目を逸らせない場合には、設定を受け入れて答えることができない。従って、SFA 面接において、CL が設定を受け入れやすくするには、いくつかの工夫が考えられる。例えば、肯定的な状況の設定を受け入れやすくするには、「これから起こる解決を聞く質問」に先立って、CL からイエスという回答をもらえるような質問を重ねていくイエス・セットという技法を用いる。これは、同意の習慣性あるい

Table 12

ある未来志向質問に対する答えでみるカテゴリの説明

質問：就職説明会に参加したら、今とはどんなところが違っていますか。

カテゴリ	定義	評定1 (答えられなかった)の例	評定4 (答えられた)の例
仮説 設定性	問題が解決したという肯定的な状況や事態の設定を受け入れられるかどうか。	【肯定的な状況の設定を受け入れられない、否定する】 答え：でも、やっぱり、就職説明会に参加するかどうか分からないし。	【仮説設定を受け入れ、自ら設定を続けた】 答え：これからすべきことが分かって始めると思うし、始めたらやる気も出てきて実現に向けて頑張ろうってなって… (略)。
適切性	質問の意を汲み、質問内容を理解し、質問に即して答えたかどうか。	【質問内容と異なることを答えた】 答え：あ、それで就職説明会っていうので思い出したんですけど、私の中学時代は… (略)。	【質問内容に十分即し、言葉を選びながら答えた】 答え：不安に思っていることが確認できたら次の段階に進める、気持ちの整理が付いたら次の行動に移れるとか。
具体性	具体的、明確に答え、具体例を挙げたり詳細に説明する答え方。	【漠然、曖昧、明確な表現が乏しい】 答え：ああ、それはそれでプラスになっているかもしれないですね。	【具体例を複数挙げ、詳細に明確に答えた】 答え：教養の勉強しながら、企業研究を進めて、そのうちエントリーシート書き方とかも勉強したりして。
想像性	“これから”のイメージを膨らませたり、豊かなイメージを展開させた答え方。	【イメージが浮かばない】 答え：えーっと、まだちょっと分からない。	【自分の言動と相手の反応を想像】 答え：不安がなくなって、気持ちが前向きになって、空きコマには将来の話をして友人とできるようになって、考えが固まってきたんだなって言われるかも。
関連性	答えた事柄に関連を持たせて答える。あるいは、他の面への影響性などを考慮した答え方。	【羅列的に結びつきの弱い事柄を並べる】 答え：気持ち的に安心する、情報が手に入る、就職活動を始めようってなると思う。	【順序立てて想像、行動と情緒を関連させた】 答え：情報を得ると具体的な目標が決まると思う。そうすると、勉強しようと思っても出てきて、行動していけば不安も消えていって。
意欲性	質問に対し意欲的に答える、意欲を持って答える。	【意志判断し行動する意欲や主体性がない、受身】 答え：ああ、こんな職業があるのかなっていうのがあったらおもしろい。	【主体的、意欲的、積極的な態度】 答え：積極的に自分から先輩の話聞きに行くとか、調べたり勉強したり、自分の方向性ややりたいことは何かを深めていく。

注)各カテゴリの定義と、未来志向の質問「就職説明会に参加したら、今とはどんなところが違っていますか」に対し、各カテゴリで最も低くあるいは高く評定される場合の回答例(実例に基づき改変)を表記した。

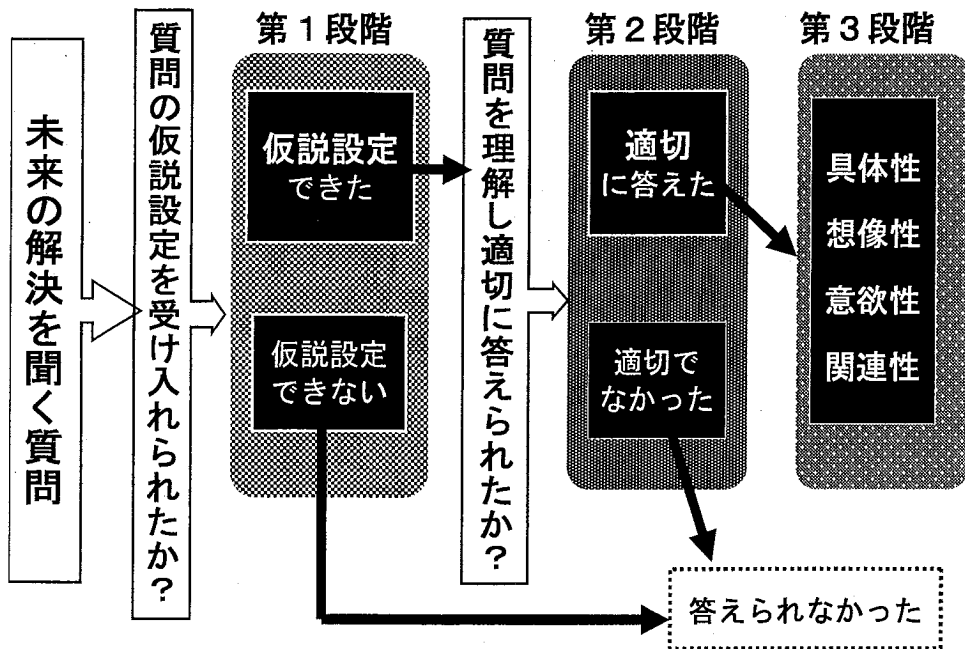


Figure 3 「未来の解決を聞く質問」に対する面接参加者の応答を面接者が評価するモデル

見方: このモデルは参加者の回答を段階毎にカテゴリで評定するプロセスを示している。参加者が未来の解決を聞く質問で尋ねられた時、質問の仮説設定を受け入れられたかどうかを第1段階で評価し、仮説設定が受け入れられた応答は適切な応答であったかどうかを第2段階で評価する。第3段階は、仮説設定を受け入れ適切に答えられた応答は、どういう側面や厚みを持って構成されているかを評価する。第1段階及び第2段階で、仮説設定が受け入れられなかったり適切に答えられなかった応答は、質問に対し「答えられなかった」応答となる。

は同意のセットを作り出す技法とされている (Erickson & Rossi, 1976)。この技法によって、同意の構えを作り、特殊な質問でも受け入れられるよう導くことができると考えられる。また、現実や問題へのとらわれから自由になり視点の転換を促すには、CLが予想し期待していたタイプの質問とかけ離れたものであれば、その質問の視点転換の力は大きいものになる (遠山, 1996)。そのことから、現実に基づいた設定や現実に近い設定の質問よりも突飛な設定の質問のように、質問の内容を工夫する必要がある。

(2) 第2段階及びカテゴリ：「適切性」

第2段階は、SFA質問の設定を受け入れて答えられた応答が、質問の意味を正しく理解し適切に答えられたかどうかという段階で、それを評価するカテゴリは「適切性」である。設定は受け入れられたものの、質問の意を理解できずに答えている場合は、質問に対し、適切に答えられていないということになる。適切に答えられにくい場合には、それが何によるものかを見極める必要がある。質問の構造が認識されなかったのか、質問の主旨を正確に捉えられなかったのかなどである。SFAの質問は特殊な質問であり、質問された側は戸惑うことが多い (遠山, 1998)。なぜなら、悩みの渦中にあるCLは、“問題の起こっていること”に注目するあまり、“問題の起こっていない状況”に対する注目はほとんどされていないからである (吉川, 2002)。しかし、SFA面接では、そのほとんど注目されていない状況に焦点が当てられるため、CLは何をどのように答えたらいいいのか戸惑い、質問に適切に答えられなくなってしまうのかもしれない。答えにくさのポイントに応じて、言葉を変えて質問を重ねたり、質問の意図を説明したり、質問の内容や意味を理解できるように伝えることが必要であると思われる。質問そのものを適切に受け止

めることがなされないと SFA 質問の良さは発揮されないどころか意味を持たないと思われる。

(3) 第 3 段階及び各カテゴリ：「具体性」, 「想像性」, 「関連性」, 「意欲性」

第 3 段階は、設定を受け入れて適切に答えられた応答は、どういう側面や厚みを持って構成されているかを評価する段階である。そのため、以下の 4 カテゴリが使用される。

「具体性」は、漠然、曖昧ではなく具体的、明確に、例を挙げたり詳細に答えられた応答かどうかということである。SFA 面接においては、CL が解決像を具体的に描くうちに気付きを得て新たな展開が始まるものが少なくない。具体的に考えていくうちに漠然と考えていた時にはなかった気付きが起こり、目標が意外と近いところにあり、全く手が届かないというほどではないことに気付くこともあり、意欲が沸き、解決へ向けての期待を高めることにも繋がる（遠山, 1996）。従って、SFA の質問に対してより具体的に答えられるようにするには、具体的に考えを進めやすく答えやすい質問を行うことである。質問内容の設定場面や変化する事柄や対象を限定し区切りながら、小さな範囲で 1 つ 1 つ丁寧に質問して答えてもらうような工夫が必要であると考えられる。

「想像性」は、豊かで前向きなイメージを膨らませたり展開させた応答かどうかということである。SFA の質問によって、豊かな想像を膨らませることは、新たな視点へ導いたり、様々な可能的世界に触れられたりなど、ものの見方や捉え方に大きく働きかけると考えられる。よって、質問に対して豊かに想像的に語られることは重要である。しかし、CL は当初、問題に心を奪われており、望ましい結果や解決後のイメージについて話すよう求められると、驚いたり、考え付くまでに時間がかかっ

たりすることも多い（中西, 2000）。このような時には、重要な他者の視点を通すことにより、解決後の結果についてのイメージを豊かに語れる場合がある（中西, 2000）。また、「スケーリングで聞く質問」を用いることで、ある状態からある状態への変化について考えやすくなり、思考が膨らまされる（遠山, 1996）。このように、未来の解決や解決後のイメージや想像を膨らませるには、SFAの他の質問を取り入れることが有効であるといえる。

「関連性」は、質問に対する答えとして、答えた“変化”の事柄に関連を持たせて答えたかどうかということである。順を追って変化を想像したり、他の場面への波及、情緒的な面と行動的な面とを併せた答え方などはよりよい答え方といえる。羅列的に関連しない事柄を並べる答え方では、せっかく挙げられた“変化”の価値は半減してしまう。なぜなら、関連性を持たせて答えることは、1つの変化だけで留まるのではなく、たった1つの変化でも多方面へ広がることを示し、あらゆる側面から変化を捉えることを可能にするからである。Berg（1994 磯貝監訳 1997）が、SFAの治療実践の基本的仮説として、“変化は絶えず起こっている”、“小さな変化が大きな変化を引き起こす”と述べているように、ある側面での小さな変化は、生活の他の部分にも変化を引き起こす。従って、できるだけ相互関係を表す言葉で変化が記述されるよう質問を工夫する必要がある。

「意欲性」は、質問に対し、自分の意志判断で行動しようとする態度で答えたか、物事を積極的に成し遂げようと意欲的に答えたかどうかということである。「意欲性」は、漠然とした気持ちや感情の高まりや変化といった情緒的な内容と今後の具体的で積極的な行動といった行動的な内容とを併せ持っている。具体的で現実的な行動が表明されると実際の

行動に近付きやすいという報告がある。肯定的な状況を仮定した質問に答えること自体、仮定された状況や行動にコミットメントを強めることになるためである（遠山, 1996）。意欲を持って答えてもらうため、例えば、警戒心や違和感を取り除く方法として、SFAの基本的態度である①丁寧に尋ねる②教えてくださいという態度で質問する③答え方の自由度が高い質問文を選ぶ（遠山, 1998）を忠実に行うことである。さらに、将来の肯定的な事態の質問の設定そのものに参加者が興味を持ち、惹きつけられると、回答しようとする動機付けを高め、思考を活性化する（遠山, 1996）。このことから、CLの関心に合わせて質問内容に工夫を凝らさなければならないといえる。

3) 限界と今後の課題

本研究は、SFAの面接について、新たな視点とアイデアを提供するものである。しかし、今回得られたデータは、実際の相談場面とは隔たりがある点にも注意を要する。本研究の分析対象となったデータは以下の特徴を有する。第1に、健康な大学生を対象とした。第2に、相談場面を進路相談に設定した。第3に、5回までの時間制限的な実験的な面接であった。第4に、SFAの質問のうち「未来の解決を聞く質問」の応答のみを扱った。このように本研究の設定は多くの限界を含んでいる。よって、今後はこのような限界をクリアすべく、多様な臨床場面における研究をしていく必要がある。

本研究では実験的手法や質的分析を試み、SFAの技法をより実証的に検討する、また、オープンに討議するための方法論を構築することを目指しており、本研究においてその可能性が確認できたと思われる。しかし、本研究では、質的研究法のうちGTAを採用しカテゴリやモデルを提案したが、上記のように限られたデータに基づいた仮説的なものであ

り、他の分析法を用いれば、修正や検討が必要になるかもしれない。今後は、広範なデータを用いて検証し、本研究で得られたカテゴリやモデルの信頼性や妥当性については、研究者とは異なる複数の面接者によるデータ、分析方法によって再検討される必要がある。

本研究は、SFAの質問に対するCLの応答をカテゴリ化やモデル化することにより、その特徴を把握するという探索的な試みであった。得られたカテゴリで応答を評定し、図示するという新たな方法論を提案したが、この点についても同様の検討や改善が必要である。今後は、上記のように研究方法をより客観的で妥当性の高いものにした上で、本研究の成果を実践で応用することは可能であると思われる。例えば、事例研究として、答え方の個人差を検討することにより、個人のアセスメントや答え方の差異がもたらす効果や影響の検討、さらには効果的な相談、援助に向けた介入などが可能になると考えられる。本研究は、今後のSFA研究のための基礎的な研究として位置付けられることが期待される。

第3章

総合考察

第1節 本研究の成果と意義

1. 研究1と研究2

本研究では、進路相談場面を実験的手法を用いて設定し、SFA 質問技法の有効性を BLS と比較検討した。研究1より、SFA 群は BLS 群に比べ、進路選択に対する結果期待を高め、進路探索行動を促すことや職業選択課題の認知を変化させる傾向があることが明らかとなった。研究2では、SFA 質問技法の効果を詳細に探索する試みとして、現在志向技法と未来志向技法に分けて志向性による違いを検討した。研究1, 2より、大学生の進路相談における SFA の有効性を実証的に示すことができた。これらは、従来臨床報告等で示唆された SFA の有効性を裏付ける試みの1つといえるであろう。

本研究で用いた尺度は、事例研究や実践報告での示唆や指摘に基づいて設定した。しかし、それらは実証はされていない。そこで、本研究では先行研究の示唆や指摘を SFA の効果を把握する変数として、仮説的に設定した。また、数少ない SFA の有効性を実証的に検討している先行研究では、複数の測度を同時に測定した研究は見当たらない。本研究では、複数の測度を設定した点でも新たな試みであったといえる。

2. 研究3

研究3では、SFA の質問に対する参加者の応答をカテゴリで評定し、図示するという新たな方法論を提案し、参加者の特徴を視覚的に把握できることを示した。それにより、個々の参加者の特徴を把握し、それに応じて働きかけを工夫したり検討することが可能となったといえる。

3. 本研究全体を通して

研究1～3より、SFAが有効であった参加者とそうでない参加者の存在が明らかになったが、一部の参加者の中には、SFAの面接が参加者の成長に繋がる可能性もうかがえた。面接後の参加者の感想に、「日頃考えないことを聞かれて驚いた」、「これまで考えてみたこともないことを考えるようになった」などとあることから、SFAの質問によって『考える体験』を与えることができたといえる。解決に焦点を当てたSFAの質問は新鮮に受け止められ、参加者の気づきを促したのではないかと考えられる。本研究ではプリテスト、ポストテスト時点のみの結果で、フォローアップ時点での調査を行っていないため、参加者の成長について明言はできないが、参加者に新たな経験を与えることができたと考えられる。

第2節 今後の課題

本研究では、研究方法上限界があり、いくつかの問題点と課題が残された。

1. 面接技法要因の設定

予備実験と研究1では、SFAとBLSを比較した。BLSを本研究で最初の比較対象としたことは理論的には妥当であったと考えられるが、BLSとの比較のみではSFAの特徴や独自の機能を十分明らかにされたとは言いがたい。従って、今後はBLSよりもさらに焦点を絞った面接態度や技法、例えば、SFA同様に認知面を重視した認知行動論的アプローチ、問題志向アプローチ、システムズアプローチ等を用いて比較する必要がある。一方、研究2では、SFAのどのような性質や特徴が作用する

のかを検討するため、質問の志向性という観点から SFA1 と SFA2 の比較を試みたが、比較の妥当性を検討する必要がある。今後は、本研究とは異なる観点、例えば、質問の目的や内容別、質問の組み立てや組み合わせ等による検討を行い、SFA の効果のメカニズムや SFA のどのような性質が効果と関連があるのかを検討することが必要である。

2. 面接技法の効果を測定する尺度の妥当性

本研究では SFA によって参加者がどのように変化するかを捉える変数を取り上げたが、例えば、自己効力感尺度は、予備実験と研究 1 では尺度を変更したが、結果は変わらなかった。一方、課題認知尺度は、予備実験と研究 1 で共通して使用したが結果は異なった。従って、用いる尺度の妥当性を検討する必要がある。本研究では SFA による参加者の変化を捉える変数として、主に進路選択に対する結果期待、職業選択課題認知、進路探索行動を取り上げたが、今後はこれらの変数以外に、参加者の SFA による変化を示す変数の存在や変数間の関連も検討する必要がある。また、本研究の結果から、使用した尺度は BLS との比較のためには不十分であったと考えられる。今後は、より明確に参加者の面接による変化を捉える変数や変数間の関連も検討する必要がある。

本研究では、進路相談場面を設定しているため、進路選択に関する尺度を用いた。例えば、臨床場面では、臨床症状（例えば、抑うつ状態、無気力など）を伴った相談があるが、その場合は症状の改善度などの変数を設定する必要があると考えられる。また、本研究で使用した変数は、先行研究の示唆を拾い集めたものであるため、より詳細に 1 つ 1 つの事例研究や実践報告等を探索すれば、新たな変数の設定も可能と思われる。本研究で用いた変数が SFA の効果や SFA の効果を反映する変数のすべ

てではない上、面接の目的によって変数は異なり、場面ごとに用いられる変数は違ってくるのが考えられる。

加えて、研究2の考察で触れたように、SFAにはポジティブな効果だけでなく、ネガティブな効果があると考えられる。SFAの独特な質問に答えられない人や答えにくい人がいることが研究3の質的検討でも明らかとなったが、量的な検討でも明らかになった。ネガティブな効果の背景として、SFA質問は独特で答えにくい面もあり、参加者によっては面接への動機付けが下がったり、答えられなさによって解決の意欲が低下する可能性が考えられる。従って、答えにくい思いを測定する尺度や動機付けを測定する尺度、気分の状態を測定するPOMS(Profile of Mood States)のような尺度などを設定するのも必要ではないかと考える。

このように、用いる変数や尺度については、多くの課題が残されており、1つずつ丁寧に詳細に検討しなければならない。

3. 場面設定

本研究では職業や将来のことを相談する進路相談場面限定してSFAの特徴や機能について検討を行った。「大学生の進路相談場面」という場面設定は、先述したようにSFAが有効な場面であるという村上(2003)の指摘をもとに設定された。「大学生の進路相談場面」という場面を設定することで、対象の属性や効果の生起機序を考慮することなく、SFA技法の効果を検証することができたといえる。この点は、研究方法として適切であったと考えられるが、そのためにどのような対象やどのような相談内容に有効なのかという適性処遇交互作用的側面への配慮、すなわち効果の生起機序に関わる考慮や考察は本研究では行えなかった。今後は、夫婦の問題(Zimmerman et al., 1997)、子育て相談(Sharry, 1999)、

教育相談（定金, 1996）等, その他の問題の相談場面を取上げ, SFA を用いることで本研究と同様の結果が相談内容の違いに関わらず示されるか否かを検討する必要がある。そして, どのような対象のどのような問題に SFA が有効であるか, あるいはこの技法を施行する上で考慮すべきことは何かを検討しなければならない。

4. 実験期間

本研究ではプリテスト・ポストテスト法によって面接直後の効果を検討したが, 面接の効果の持続性, すなわち遅延効果は確かめられていない。今後は, ポストテストから一定期間後にフォローアップを行って遅延効果を測定し, 検討する必要がある。また, 5回の面接回数の設定は, DeJong & Berg (1998 玉真・住谷監訳 1998) の SFA の治療成績の報告に基づいた。しかし, 本研究で5回の面接で適切であったかも含め, 妥当な面接回数の検討も必要であると思われる。

5. 参加者の属性

本研究では, 質問技法の有効性を検討する上で, 対象要因と方法要因との交互作用については検討していない。本実験を通常の実験計画の観点からみれば, 対象要因と方法要因との交互作用を検討する必要があると考えられる。例えば, 進路決定が迫られている立場として同様であるが発達段階の違う小学6年生, 中学3年生, 高校3年生の3群の参加者を設定する, あるいは, それまで学習された対処行動のレパトリリーの有無という観点から, 大学3年生だけでなく, 大学1~4年生の複数の群を設定する, といったことが必要であったと考えられる。さらに, 参加者の経験も考慮しなければならない。例えば, 参加者が過去に高校

進学、大学進学という機会に進路選択を経験しており、進路選択に関わっていくつかの対処行動を持っていると考えられる場合には、それを就職活動にも適用させることで進路選択が促進されるのではないかと考えられる。例えば、志望する高校や大学を訪問して、進路選択後の勉学や生活に関する情報を得ること、進路情報の収集の方法、選択した進路を実現するための準備など、進学への対処行動であったものでも、就職活動に適用できることがいくつもある。また、進路選択に関する効力感も、過去の進路選択の成功経験によって形成されている可能性があると思われる。

ただ、本研究では、厳密な実験計画に基づくことの重要性は認識していたが、そのためには多くの参加者数の確保や複数の面接者の養成などが必要なため、現実的に実現することが極めて困難と判断し、まずは大学3年生のみで実験を行った。今後は、共同研究者を得て、複数の面接者によって、異なる属性の十分な数の参加者群を得て、本研究と同様の実験を試みたい。

同様に、本研究では、面接参加者の多くは、進路が未決定であるか、あるいはいくつかある希望進路の中で迷っている状態であったが、参加者の進路の決定状況を考慮して本研究の結果を検討していない。本研究は面接参加者の人数が少なく、進路の決定状況によって群を細分化し、統計的に検討することは困難であった。今後は、参加者の人数を増やした上で、属性による検討を行う必要があると思われるが、まずは、進路決定の進み具合と尺度得点の推移を照らし合わせて、事例ごとに検討することが必要であると思われる。それにより、SFAはどのような状態の参加者に働きかけることが最も有効なのかを明らかにする手がかりを得られる可能性がある。例えば、進路が未決定状態の参加者よりも決定し

つつある参加者，あるいは就職活動や進路探索活動をしようとしている参加者に SFA の働きかけを行うと効果的である，などである。

参加者の属性を考慮した検討や事例検討などの試みは，今後の課題である。

6. 実験者効果

本研究では，面接者と研究者が同一であったため，客観性を維持する観点から，面接者の技法の妥当性を第3者と確認するという措置をした。しかし，それだけでは，面接者効果の統制は十分とは言えず，今後の研究においては，研究者とは異なる面接者が面接を実施する，さらには複数の面接者によるデータを収集することが必要と思われる。また，SFA 質問技法の独立分類の一致率を高めるため，今後は，より具体的で詳細なマニュアルを作成し，事前の分類トレーニングを十分に行う必要がある。

引用文献

- 安達智子 (2001). 大学生の進路発達過程—社会・認知的進路理論からの検討— 教育心理学研究, 49, 326-336.
- 馬場安希・小林清香・龍田直子・大場眞理子・伊藤順一郎 (2002). 解決志向を取り入れた摂食障害患者に対する心理教育 家族療法研究, 19, 55-61.
- Berg, I.K. (1994). *Family based services :A solution-focused approach*. New York : W.W.Norton. & Company, Inc. (磯貝希久子(監訳) (1997). 家族支援ハンドブック—ソリューション・フォーカスト・アプローチ 金剛出版)
- Berg, I.K., & Miller, S.D. (1992). *Working with the problem drinker. A solution-focused approach*. Norton. (斎藤学(監訳)(1995). 飲酒問題とその解決 ソリューション・フォーカスト・アプローチ 金剛出版)
- Browne, A., & Shultis, J. (1999). Solution-focused approach to tobacco reduction with disadvantaged prenatal clients. *Journal of Community Health Nursing*, 16, 165-177.
- 千葉浩彦 (1999). 解決志向行動療法 —相談のエッセンスとその展開可能性— 川島書店
- 知野見英樹 (1999). ブリーフセラピーに関する研究 三重大学大学院教育学研究科修士論文 (未公刊)
- Dahl, R., Bathel, D., & Carreon, C. (2000). The use of solution-focused therapy with an elderly population. *Journal of Systemic Therapies*, 19, 45-55.

- DeJong,P., & Berg,I.K. (1998). *Interviewing for solutions*. US: Brooks/Cole, Pacific Grove. (玉真慎子・住谷祐子(監訳)(1998). 解決のための面接技法: ソリューション・フォーカスト・アプローチの手引き 金剛出版)
- DeShazer,S., Berg,I.K., Lipchik,E., Nunnally,E., Molnar,A., Gingerrich,W., & Weiner,D.M. (1986). Brief therapy: Focused solution development. *Family Process*, 25, 207-222.
- DeShazer,S. (1991). *Putting difference to work*. New York: W.W.Norton. & Company, Inc. (小森康永(訳)(1994).ブリーフ・セラピーを読む 金剛出版)
- Eakes,G., Walsh,S., Markowski,M., Cain,H., & Swanson,M. (1997). Family centered brief solution-focused therapy with chronic schizophrenia: A pilot study. *Journal of Family Therapy*, 19, 145-158.
- 江花昭一・山本晴義・秋庭篤代・吉村佳世子・境洋二郎・津久井はるみ・天保英明・川原健資・津久井要 (2000). 解決志向アプローチを日常の心身医療にどう組み込むか——一般心理療法から解決志向療法へ——*心身医学*, 40, 112-117.
- Erickson,M., & Rossi,E. (1976). *Hypnotic realities: The induction of clinical hypnosis and forms of indirect suggestion*. New York, Irvington.
- Franklin,C., Biever,J., Moore,K., Clemon,D., & Scamardo,M. (2001). The effectiveness of solution-focused therapy with children in a school setting. *Research on Social Work Practice*, 11, 411-434.
- Geil,M. (1998). *Solution focused consultation: An alternative*

- consultation model to manage student behavior and improve classroom environment.* Unpublished doctoral dissertation, University of Northern Colorado, Greeley CO.
- Gingerrich, W., & Eisengart, S. (2000). Solution-focused brief therapy : A review of the outcome research *Family Process*, 39, 477-498.
- 原田由実 (2002). 大学生の将来目標を対象とした解決志向アプローチによる認知変容に関する実験的研究 ブリーフサイコセラピー研究, 11, 68-76.
- 比嘉梨沙 (2000). ブリーフセラピーの効果に関する研究 三重大学教育学部卒業論文 (未公刊).
- 市川千秋 (2005). 学校臨床におけるソリューション・フォーカスト・アプローチ 現代のエスプリ, 451, 78-86.
- Ivey, A.E., & Ivey, M.B. (2003). *Intentional interviewing and counseling : Facilitating client development in a multicultural society.* Australia: Thomson Brooks/Cole.
- 木下康仁 (2003). グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い— 弘文堂
- 小林清香・馬場安希・龍田直子・大場真理子・伊藤順一郎 (2002). 摂食障害患者の家族への心理教育的グループプログラムの試み—参加者へのアンケート調査の検討を通して— 家族療法研究, 19, 62-68.
- 近藤千加子 (2005). 学生相談における解決志向アプローチの 2 事例—大学変動期における学生支援の視点から— カウンセリング研究, 37, 352-358.
- 小崎武・長谷川啓三 (2000). 小児心身症に対する短期療法 10 年間のま

- とめ 心身医学, 40, 144-149.
- 久能弘道 (2002). 解決志向アプローチによるスクールカウンセリング
実践とその有効性 (特集 不登校を考える) 行動科学, 41, 9-17.
- 栗原慎二 (2001). ブリーフセラピーを生かした学校カウンセリングの
実際 ほんの森出版
- 栗原慎二 (2002). 学校における短期カウンセリングモデルの研究 カ
ウンセリング研究, 35, 30-39.
- 黒丸尊治・内田郁・中井吉英 (2000). 「心の治癒力」を引き出すという
視点に立った短期療法について 心身医学, 40, 128-133.
- Lafountain,R., & Garner,N. (1996). Solution-focused counselling
groups: The results are in *Journal for Specialists in Group Work*,
21, 128-143.
- Lindfors,L.,& Magnusson,D. (1997). Solution-focused therapy in
prison. *Contemporary Family Therapy*, 19, 89-103.
- Littrell,J.M., Malia,J.A., & Vanderwood,M. (1995). Single-session
brief counseling in a high school. *Journal of Counseling and
Development*, 73, 451-458.
- 宮田敬一 (1992). 催眠療法から家族療法へ 現代のエスプリ, 297,
160-167.
- 宮田敬一 (1994). ブリーフセラピーの発展 宮田敬一(編) ブリーフセラ
ピー入門 金剛出版 pp.11-25.
- 宮田敬一 (1997). 解決志向ブリーフセラピーの実際 金剛出版
pp.14-17.
- 椋田稔朗・宮川真一・阪中明人・松林直 (2000). 摂食障害の患者に治療
者患者関係を改善する解決志向アプローチは有用である 心身医学,

40, 120-125.

村上香奈 (2003). 大学生がモラトリアムを通して進路決定するためには 聖マリアンナ医学研究誌, 78, 101-105.

村山佳子・雲林院武士 (2000). 学校生活を楽しくするプログラム—小学生・中学生・大学生用— 三重大学教育学部市川千秋研究室 (未公開)

中西公一郎 (2000). ソリューション・フォーカスト・アプローチについて: 異なる視点からの考察 ブリーフサイコセラピー研究, 9, 75-93.

中野葉子 (2002). 地域保健センターにおける子育て支援を目的としたグループ・カウンセリング—「アディクション」としての児童虐待への Solution Focused Approach— 日本心理臨床学会第 21 回大会発表論文集

中澤潤・大野木裕明・南博文(編) (1997). 心理学マニュアル 観察法 北大路書房

Nelson, T., & Kelley, L. (2001). Solution-focused couples group. *Journal of Systemic Therapies*, 20, 47-66.

能智正博 (2000). データ処理の基本技法—質的 (定性的) 研究法 下山晴彦(編著) シリーズ・心理学の技法 臨床心理学研究の技法 福村出版

小関哲郎 (1996). 解決モード—語る雰囲気の変化に注目する, 解決志向の学び方— ブリーフサイコセラピー研究, 5, 17-27.

小関哲郎 (1998). 「既にある解決」と「未来の解決」—ソリューション・フォーカスト・アプローチをもっとシンプルに理解する— ブリーフサイコセラピー研究, 7, 75-86.

小関哲郎・中野重行 (2000). 心療内科における Solution-Focused Approach の実践 —その現状と課題— 心身医学, 40, 106-111.

- Pomeroy, E., Green, D., & Laningham, L. (2002). Couples who care: The effectiveness of a psychoeducational group intervention for HIV serodiscordant couples. *Research on Social Work Practice, 12*, 238-252.
- 定金浩一 (1996). 進路カウンセリングとしてのブリーフ・カウンセリング 進路指導研究, 17, 1-8.
- 笹竹英穂 (2000). Solution Focused Approach を用いた非行少年の保護者への働きかけ 犯罪心理学研究, 38, 11-20.
- Seagram, B.C. (1997). *The efficacy of solution-focused therapy with young offenders*. Unpublished doctoral dissertation, York University, New York, Ontario, Canada.
- Selekman, M. (1996). Turning out the light on a seasonal affective disorder. *Journal of Systemic Therapies, 15*, 40-51.
- Sharry, J. (1999). Toward solution groupwork: Brief solution-focused ideas in group parent training. *Journal of Systemic Therapies, 18*, 77-91.
- Sharry, J. (2003). *Solution-focused parent training*. In O'Connell, B., & Palmer, S. Eds., *Handbook of solution-focused therapy*. London, Thousand Oaks, Calif: Sage Publications.
- 島田昌幸 (2003). 学習支援教材の開発の方法—解決志向療法からの考察— 産業能力開発総合大学校紀要, 32, 25-45.
- 下村英雄 (1998). 大学生の職業選択における決定方略学習の効果 教育心理学研究, 46, 193-202.
- 下山晴彦 (1986). 大学生の職業未決定の研究 教育心理学研究, 34, 20-30.

- Strauss,A.L., & Corbin,J.M. (1990). *Basics of qualitative research: Grounded theory procedures and techniques*. Newbury Park,CA:Sage. (ストラウス A.L.・コービン J.M. 南裕子(監訳) (1999). 質的研究の基礎 ―グラウンデッド・セオリーの技法と手順― 医学書院)
- Sundstrom,S.M. (1993). *Single-session psychotherapy for depression: Is it better to focus on problems or solutions?* Unpublished doctoral dissertation,Iowa State University,Ames IA.
- 遠山宜哉 (1996). 解決中心のアプローチにおける質問の機能 弘前大学保健管理概要, 18, 17-29.
- 遠山宜哉 (1998). 問うことの援助的意義 ―ソリューション・フォーカスト・アプローチにおける質問― 家族心理学年報, 16, 176-188.
- Triantafillou,N. (1997). A solution-focused approach to mental health supervision. *Journal of Systemic Therapies*, 16, 305-328.
- 浦上昌則 (1995). 学生の進路選択に対する自己効力に関する研究 名古屋大学教育学部紀要, 42, 115-126.
- 若島孔文・佐藤宏平 (1999). ソリューション・フォーカスト・アプローチではコミュニケーション上, 何が行われているのか? ブリーフサイコセラピー研究, 8, 80-60.
- 吉川悟 (2002). ソリューション・フォーカスト・アプローチ 岡堂哲雄 (編) 現代のエスプリ別冊 心理カウンセリング PCA ハンドブック 至文堂 pp.194-207.
- Zimmerman,T., Jacobsen,R., & Watson,C. (1996). Solution-focused parenting groups: An empirical study. *Journal of Systemic Therapies*, 15, 12-25.

Zimmerman, T., Prest, L., & Wetzel, B. (1997). Solution-focused couples therapy groups: an empirical study *Journal of Family Therapy*, 19, 125-144.

謝 辞

多くの方々のご厚意に支えられて本論文を作成することができました。主任指導教員の兒玉憲一先生，副指導教員の深田博己先生，岡本祐子先生には，終始熱心にご指導いただきました。また，心理学教室の先生方には拙論を何度も査読していただき，貴重なコメントを数多く頂戴しました。心よりお礼を申し上げます。

また，本研究の面接に参加してくださいました学生の皆さん，SFA に関してご教示くださいました広島ファミリールームの村上雅彦先生に厚くお礼申し上げます。

最後に，さまざまな面で支えてくださった研究室の皆さんや友人たちに感謝します。

2008年1月25日

栗田智未

資料

予備実験

質問紙

大学生の進路カウンセリングに関するアンケート

この調査は、大学生が自分にふさわしい進路を決定するのに役立つカウンセリングのあり方について研究するものです。研究では、このアンケートと同時にカウンセリング的面接も行いますが、本日はアンケートのみ行います。ぜひカウンセリング的面接にもご協力ください。詳しくは6ページをご覧ください。

調査の結果は、すべて統計的に処理され、研究目的にのみ使用されます。あなた1人の回答のみを問題にしたり、公表することはありません。あまり深く考え込まず、ありのままお答えください。また、回答が終了しましたら、記入漏れがないかお確かめください。

[調査者]

教育学研究科心理学専攻博士課程前期2年 栗田智未

[指導教官]

教育学研究科心理学講座教授 兒玉 憲一

回答の仕方

各文章を読んで、その内容がどれだけ自分に当てはまるかを判断してください。文章の内容が自分に当てはまると思ったら3の方に○をつけてください。また、文章の内容が自分に当てはまらないと思ったら、1の方に○をつけてください。

回答例

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
1 希望する職業がある。	①	2	3

【第1部】

次の文章を読み、現時点のあなたに最もよく当てはまると思う番号1(当てはまらない)~3(当てはまる)のうち1つだけ○をつけてください。

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
1 自分の職業計画は、着実に進んでいると思う。	1	2	3
2 自分の将来の職業については、何を基準にして考えたらよいのか分からない。	1	2	3
3 せっかく大学に入ったのだから、今は職業のことは考えたくない。	1	2	3
4 できることなら職業決定は、先に延ばし続けておきたい。	1	2	3
5 望む職業につけないのではと不安になる。	1	2	3
6 将来、やってみたい職業がいくつかあり、それらについていろいろ考えている。	1	2	3
7 生活が安定するなら、職業の種類はどのようなものでもよい。	1	2	3
8 自分のやりたい職業は決まっており、今は、それを実現していく段階である。	1	2	3
9 自分がどのような職業に適しているのかわからない。	1	2	3
10 職業決定と言われても、まだ先のことのようでピンとこない。	1	2	3
11 将来自分が働いている姿が全く思い浮かばない。	1	2	3
12 職業決定のことを考えると、とても焦りを感じる。	1	2	3
13 職業を最終的に決定するのはまだ先のことであり、今はいろいろなことを経験してみる時期だと思う。	1	2	3
14 自分を採用してくれる所なら、どのような職業でもよいと思っている。	1	2	3
15 自分の職業決定には自信を持っている。	1	2	3
16 自分の職業については、いろいろ計画を立てるが、一貫性が無く、次々に変化していく。	1	2	3
17 自分の知っている職業の中でやりたいと思う職業が見つからない。	1	2	3
18 これまで、自分自身で決定するという経験が少なく、職業決定のことを考えると不安になる。	1	2	3
19 職業に関する情報がまだ充分にないので、情報を集めてから決定したい。	1	2	3
20 できるだけ有名な所に就職したいと思っている。	1	2	3
21 自分なりに考えた結果、最終的にひとつの職業を選んだ。	1	2	3

次のページへお進みください。

		当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
22	誤った職業決定をしてしまうのではないかという不安があり、決定できない。	1	2	3
23	私は、いつも自分で実現できないような職業ばかり考えている。	1	2	3
24	職業につけたとしても、うまくやっていく自信がない。	1	2	3
25	将来の職業のことを考えると気が滅入ってくる。	1	2	3
26	将来の職業については、いくつかの職種に絞られてきたが、最終的にひとつに決められない。	1	2	3
27	自分にとって職業につくことは、それほど重要なことではない。	1	2	3
28	自分一人で職業を決める自信がない。	1	2	3
29	今の状態では、自分の一生の仕事など見つかりそうもない。	1	2	3
30	将来の職業については、考える意欲が全く沸かない。	1	2	3
31	私は、あらゆるものになれるような気持ちになる時と、何にもなれないのではないかという気持ちになる時がある。	1	2	3
32	これだと思える職業が見つかるまでじっくり探していくつもりだ。	1	2	3
33	できることなら誰か他の人に自分の職業を決めてもらいたいと思うことがある。	1	2	3
34	自分が職業としてどのようなことをやりたいのかわからない。	1	2	3
35	職業のことは、大学4年生になってから考えるつもりだ。	1	2	3
36	できることなら、職業など持たずいつまでも好きなことをしていきたい。	1	2	3
37	職業は決まっていないが、今の関心を深めていけば、職業につながってくると思う。	1	2	3
38	学歴や“ツテ”を利用してよい職業につきたい。	1	2	3
39	自分の将来の職業について真剣に考えたことがない。	1	2	3

次のページへお進みください。

【第2部】

次の各文章を読み、現時点のあなたにとってどのくらい自信があるか、最もよく当てはまると思う番号1(全く自信がない)～4(非常に自信がある)のうち1つだけ○をつけてください。

	全く自信がない	あまり自信がない	少しは自信がある	非常に自信がある
1 自分の能力を正確に評価すること	1	2	3	4
2 自分が従事したい職業（職種）の仕事内容を知ること	1	2	3	4
3 一度進路を決定したならば、「正しかったのだろうか」と悩まないこと	1	2	3	4
4 5年先の目標を設定し、それにしたがって計画を立てること	1	2	3	4
5 もし望んでいた職業に就けなかった場合、それにうまく対処すること	1	2	3	4
6 人間相手の仕事か、情報相手の仕事か、どちらが自分に適しているか決めること	1	2	3	4
7 自分の望むライフスタイルにあった職業を探すこと	1	2	3	4
8 何かの理由で卒業を延期しなければならなくなった場合、それに対処すること	1	2	3	4
9 将来の仕事において役に立つと思われる免許・資格取得の計画を立てること	1	2	3	4
10 本当に好きな職業に進むために、両親と話し合いをすること	1	2	3	4
11 自分の理想の仕事を思い浮かべること	1	2	3	4
12 ある職業についている人々の年間所得について知ること	1	2	3	4
13 就職したい産業分野が、先行き不安定であるとわかった場合、それに対処すること	1	2	3	4
14 将来のために、在学中にやっておくべきことの計画を立てること	1	2	3	4
15 欲求不満を感じても、自分の勉強または仕事の成就まで粘り強く続けること	1	2	3	4
16 自分の才能を、最も生かせると思う職業的分野を決めること	1	2	3	4
17 自分の興味を持っている分野で働いている人と話す機会を持つこと	1	2	3	4
18 現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	1	2	3	4
19 自分の将来の目標と、アルバイトなどでの経験を関連させて考えること	1	2	3	4
20 両親や友達が勧める職業であっても、自分の適性や能力にあっていないと感じるものであれば断ること	1	2	3	4
21 いくつかの職業に、興味を持っていること	1	2	3	4

次のページへお進みください。

		全く自信がない	あまり自信がない	少しは自信がある	非常に自信がある
22	今年の雇用傾向について、ある程度の見通しを持つこと。	1	2	3	4
23	自分の将来設計にあった職業を探ること。	1	2	3	4
24	就職時の面接でうまく対応すること。	1	2	3	4
25	学校の就職係や職業安定所を探し、利用すること。	1	2	3	4
26	将来どのような生活をしたいか、はっきりとさせること。	1	2	3	4
27	自分の職業選択に必要な情報を得るために、新聞・テレビなどのマスメディアを利用すること。	1	2	3	4
28	自分の興味・能力に合うと思われる職業を選ぶこと。	1	2	3	4
29	卒業後さらに、大学、大学院や専門学校に行くことが必要なかどうか決定すること。	1	2	3	4
30	望んでいた職業が、自分の考えていたものと異なっていた場合、もう一度検討し直すこと。	1	2	3	4

【第3部】

次の各文章を読み、現時点のあなたに最もよく当てはまると思う番号1(そう思わない)～5(そう思う)のうち1つだけ○をつけてください。

	そう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う
1	1	2	3	4	5
2	1	2	3	4	5
3	1	2	3	4	5
4	1	2	3	4	5
5	1	2	3	4	5
6	1	2	3	4	5
7	1	2	3	4	5

次のページへお進みください。

		そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
8	就職活動とは、時間やお金など、様々な投資が必要である。	1	2	3	4	5
9	職業の選択では、選択の幅が広すぎて、かえってあいまいになってしまう。	1	2	3	4	5
10	職業の決定は、かなり複雑な決定だと思う。	1	2	3	4	5
11	職業の選択は、失敗したら、かなり取り返しのつかない選択であると思う。	1	2	3	4	5
12	就職活動のために、お金はある程度なければいけない。	1	2	3	4	5
13	職業選択は、どれほど深く考えても、後悔する点の多い決定だと思う。	1	2	3	4	5
14	職業の決定は、今までの経験を生かして容易に行えると思う。	1	2	3	4	5
15	職業選択は、自分の一生を左右する問題である。	1	2	3	4	5
16	職業の決定は、今までの決定とくらべて、全く異なる決定であると思う。	1	2	3	4	5
17	職業の決定では、結局のところ、何が最終目的なのか、よく分からない。	1	2	3	4	5
18	職業の選択は、いろいろな選択の中でも、なじみのある選択である。	1	2	3	4	5
19	職業選択とは、なぜこの職業を選んだのか、きちんと説明できなければいけないような決定である。	1	2	3	4	5
20	就職活動では、かなり時間がとられそうである。	1	2	3	4	5

【第4部】

あなたは現在の生活において、部活(サークル)、アルバイト、授業、友人関係、就職活動をどのくらい重要に感じていますか。最もよく当てはまると思う番号1(重要ではない)~5(重要である)のうち1つだけ○をつけてください。

	重 要 で は な い	あ ま り 重 要 で は な い	ど ち ら と も い え な い	や や 重 要 で あ る	重 要 で あ る
部活 サークル	1	2	3	4	5
アルバイト	1	2	3	4	5
授業	1	2	3	4	5
友人関係	1	2	3	4	5
就職活動	1	2	3	4	5

【第5部】

①あなたについてお尋ねします。性別、所属、学年、年齢、学籍番号下4ケタについてお答えください。

性別 男 ・ 女 [当てはまる方に○]
所属 () 学部 () 類 () コース
学年 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 [当てはまるものに○]
年齢 () 歳
学籍番号下4ケタ ()

※結果を整理する際に使用します。個人を特定する目的では使用しません。

②現在のあなたの希望進路について、当てはまる番号1(教師)~6(その他)のうち1つだけ○をつけてください。

教師	進学	一般企業	公務員 (教師以外)	未決定	その他 ()
1	2	3	4	5	6

以上で質問は終わりです。回答漏れがないか、ご確認ください。ご協力ありがとうございました。

なお、カウンセリング的面接調査のお願いをしております。ご協力ください。

カウンセリング的面接のお願い

カウンセリング的面接は、大学生の進路に対する意識が、定期的な心理学的カウンセリングを行うことで、その後どのように変化するのかを見る目的で行います。面接は、2週間に1回計5回、定期的にお会いして、あなたの進路の考え方についてお話を聞かせていただきます。その際、お話はカウンセリング的な態度で聞かせていただきます。

カウンセリング的面接にご協力いただける方は、ご氏名、電話番号、大学のメールアドレスをお書きください。

ご氏名 []
電話番号 []
広大メールアドレス [@hiroshima-u. ac. jp]

研究 1 と研究 2

質問紙

大学生の進路カウンセリング に関するアンケート

この調査は、大学生が自分にふさわしい進路（就職、進学を含む）を決定するのに役立つカウンセリングのあり方について研究するものです。研究では、このアンケートと同時にカウンセリング的面接も行いますが、本日はアンケートのみ行います。ぜひカウンセリング的面接にもご協力ください。詳しくは 7 ページをご覧ください。

調査の結果は、すべて統計的に処理され、研究目的にのみ使用されます。あなた 1 人の回答のみを問題にしたり、公表することはありません。あまり深く考え込まず、ありのままお答えください。また、回答が終わりましたら、記入漏れがないかお確かめください。

[調査者]

教育学研究科教育人間科学専攻（心理学）博士課程後期 2 年 栗田智未

[指導教員]

教育学研究科心理学講座教授 兒玉憲一

回答の仕方

各文章を読んで、その内容がどれだけ自分に当てはまるかを判断してください。文章の内容が自分に当てはまらと思ったら 3 の方に○をつけてください。また、文章の内容が自分に当てはまらないと思ったら、1 の方に○をつけてください。

回答例

	当てはまらない	どちらでもない	当てはまる
1 希望する職業がある。	1	2	3

【第1部】

次の1～15の文章を読み、現時点のあなたに最もよく当てはまると思う番号
1(まったく当てはまらない)～5(非常に当てはまる)のうち1つだけ○をつけて下さい。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらともいえない	やや当てはまる	非常に当てはまる
1 自分のつきたい職業の範囲はかなり絞れている。	1	2	3	4	5
2 自分が興味を持っている職業の内容は、十分知っている ので、就職のためにどのような条件が必要であるか は、よく分かっている。	1	2	3	4	5
3 自分のつきたい職業や職種を聞かれても、的確に答え られるだろうと思う。	1	2	3	4	5
4 自分のつきたい職業は前から決まっており、現在でも それに向かって、準備を進めている。	1	2	3	4	5
5 自分の適性はこれまでの経験から、かなり客観的に把 握している。	1	2	3	4	5
6 職業の選択にかなり関心がある。	1	2	3	4	5
7 職業を選択することに対してかなりやる気がある。	1	2	3	4	5
8 就職活動は、特別、苦にならず、どちらかと言えば早 くやってみたいと思う。	1	2	3	4	5
9 社会に出てから役立つ知識や資格を得ることに、大き な関心をもっている。	1	2	3	4	5
10 自分の選んだ職業を通じて、自分にどれだけの力があ るのか確かめてみることに、大きな関心をもってい る。	1	2	3	4	5
11 どんな職業でもいいから、まず適当なところに就職 し、将来のことはその後でじっくり考えればよい。	1	2	3	4	5
12 どのような職業でも一応はやっていけると思うので、 あまり選択の幅を狭めたくないと思う。	1	2	3	4	5
13 職業選択は、くじ引きのようなもので、ある人がその 職業についているのは、偶然の結果である。	1	2	3	4	5
14 どんなことでも一生懸命やれば、きっと成功すると思 うから、どの職業を選ぶかはたいした問題ではない。	1	2	3	4	5
15 自分が将来どうなるのか、まったくわからないのだから、 自分の適性に合った職業を考えても意味がない。	1	2	3	4	5

【第2部】

次の1～5の文章を読み、現時点のあなたに最もよく当てはまると思う番号
1(まったく当てはまらない)～5(よく当てはまる)のうち1つだけ○をつけて下さい。

		ま つ た く あ ま り あ ま り あ ま り	あ ま り あ ま り あ ま り	ど ち ら と も い え な い	あ ま り あ ま り あ ま り	あ ま り あ ま り あ ま り
1	どのようにして職業を決めればよいのかわからないので不安である。	1	2	3	4	5
2	希望する職業はあるが、これが最良なのかどうか、不安を感じる。	1	2	3	4	5
3	社会変化や景気変動が希望職種に大きな影響を与えるのではないかと不安だ。	1	2	3	4	5
4	自分は就職できないのではないかと心配になる。	1	2	3	4	5
5	職業選択は十分考えたうえでっており、あまり気にならない。	1	2	3	4	5

【第3部】

次の1～4の文章を読み、現時点のあなたに最もよく当てはまると思う番号
1(まったく当てはまらない)～5(非常によく当てはまる)のうち1つだけ○をつけて下さい。

		ま つ た く あ ま り あ ま り	あ ま り あ ま り あ ま り	ど ち ら と も い え な い	あ ま り あ ま り あ ま り	あ ま り あ ま り あ ま り
1	仕事についていろいろと勉強すれば、よりよい職業選択ができるだろう。	1	2	3	4	5
2	自分の興味や能力を理解すれば、よりよい職業選択ができるだろう。	1	2	3	4	5
3	仕事でどのような知識や技術が必要となるか分かれば、よりよい職業選択ができるだろう。	1	2	3	4	5
4	じっくり時間をかけて職業情報の収集を行えば、よりよい職業選択に何が必要なのか分かるだろう。	1	2	3	4	5

		そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	そ う 思 う や や そ う 思 う	そ う 思 う
4	就職活動では、お金がかかりそうである。	1	2	3	4	5
5	どの職業が良いかは、その時々で容易に変わるものだ。	1	2	3	4	5
6	職業の決定では、決定の基準を定めるのがかなり困難であると思う。	1	2	3	4	5
7	職業は、一度決めてしまえば、なかなか変えられないものだ。	1	2	3	4	5
8	就職活動とは、時間やお金など、様々な投資が必要である。	1	2	3	4	5
9	職業の選択では、選択の幅が広すぎて、かえってあいまいになってしまう。	1	2	3	4	5
10	職業の決定は、かなり複雑な決定だと思う。	1	2	3	4	5
11	職業の選択は、失敗をしたら、かなり取り返しのつかない選択であると思う。	1	2	3	4	5
12	就職活動のために、お金はある程度なければいけない。	1	2	3	4	5
13	職業選択は、どれほど深く考えても、後悔する点の多い決定だと思う。	1	2	3	4	5
14	職業の決定は、今までの経験を生かして容易に行えると思う。	1	2	3	4	5
15	職業選択は、自分の一生を左右する問題である。	1	2	3	4	5
16	職業の決定は、今までの決定とくらべて、全く異なる決定であると思う。	1	2	3	4	5
17	職業の決定では、結局のところ、何が最終目的なのか、よく分からない。	1	2	3	4	5
18	職業の選択は、いろいろな選択の中でも、なじみのある選択である。	1	2	3	4	5
19	職業選択とは、なぜこの職業を選んだのか、きちんと説明できなければいけないような決定である。	1	2	3	4	5
20	就職活動では、かなり時間がとられそうである。	1	2	3	4	5

【第6部】

次の1～5の文章を読み、現時点のあなたに最もよく当てはまると思う番号
1(まったく当てはまらない)～5(非常によく当てはまる)のうち1つだけ○をつけて下さい。

		当 ま っ た く あ ま り は ま ら な い	あ ま り は ま ら な い	ど ち ら と も い え な い	や や は ま る	非 常 に よ く あ ま り は ま る
1	多くの時間を割いてじっくりと職業について考えるつもりだ。	1	2	3	4	5
2	いろいろな人と職業について話をしてみようと思う。	1	2	3	4	5
3	自分の能力や興味について今よりもっと理解を深めていくつもりだ。	1	2	3	4	5
4	職業選択で必要となる知識や技術は、すべて身につけておくつもりだ。	1	2	3	4	5
5	先生や就職課・大学の相談機関などへ、職業選択について相談しに行くつもりだ。	1	2	3	4	5

【第7部】

次の1～12の文章を読み、現時点のあなたに最もよく当てはまると思う番号
1(まったく行かなかった)～5(非常によく行った)のうち1つだけ○をつけて下さい。

		行 ま っ た く あ ま り は ま ら な か っ た	あ ま り は ま ら な か っ た	ど ち ら と も い え な い	や や 行 っ た	非 常 に よ く 行 っ た
1	将来、自分の職業となり得るものについて調べる。	1	2	3	4	5
2	就職セミナーや企業説明会に参加する。	1	2	3	4	5
3	将来の職業に関連したガイダンスや講演を聴きに行く。	1	2	3	4	5
4	関心のある仕事や組織について情報を収集する。	1	2	3	4	5
5	自分が興味をもっている職業領域に詳しい人と話をする機会をもつ。	1	2	3	4	5
6	関心のある職業領域の採用状況や就職可能性について情報を得る。	1	2	3	4	5
7	興味がある職業領域についての知識や情報を得る。	1	2	3	4	5
8	自分がこれまでやってきたことが将来の職業とどのように結びつくか考える。	1	2	3	4	5

		まったく 行わなかった	あまり 行わなかった	どちらとも いえない	やや 行った	非常に よく 行った
9	自分という人間についてよく考えてみる。	1	2	3	4	5
10	これまでの自分についてじっくり考える。	1	2	3	4	5
11	自分の将来の職業について改めて考え直す。	1	2	3	4	5
12	これまでの自分が行ってきたことと将来の職業について新しい関連づけを試みる。	1	2	3	4	5

【第8部】

次の1～9の文章を読み、現時点のあなたに最もよく当てはまると思う番号1(まったく当てはまらない)～5(非常によく当てはまる)のうち1つだけ○をつけて下さい。

		まったく 当てはまらない	あまり 当てはまらない	どちらとも いえない	やや 当てはまる	非常に よく 当てはまる
1	自分が用いる方法・方略が、どのような問題(進路の選択・決定、就職活動における問題)を解決する時に最も効果的なのかを知っている。	1	2	3	4	5
2	どのようなやり方が有効か十分考えてから、進路の選択・決定、就職活動における課題に取り組む。	1	2	3	4	5
3	進路の選択・決定、就職活動における問題の重要な部分に、意識的に注意を向けている。	1	2	3	4	5
4	自分がどの程度よく進路の選択・決定、就職活動について理解できているかを判断できる。	1	2	3	4	5
5	進路の選択・決定、就職活動における問題が解けた時、自分がどのような方法・方略を用いたか分かっている。	1	2	3	4	5
6	進路の選択・決定、就職活動における問題に取り組んでいる時に、うまくいっているかどうか、定期的に自分でチェックしている。	1	2	3	4	5
7	進路の選択・決定、就職活動のための勉強をする時は、その目的に合わせてやり方を変える。	1	2	3	4	5
8	進路の選択・決定、就職活動のための勉強をしたり、それらの問題に取り組む時には、計画を立てる。	1	2	3	4	5
9	考えが混乱した時には、立ち止まり、もとにもどって考える。	1	2	3	4	5

【第9部】

①現在、あなたは将来の職業や進路について、どのくらい重要に考えていますか。
最もよく当てはまると思う番号1(重要ではない)～5(重要である)のうち1つだけ○をつけて下さい。

	重要 でない	重 要 あ ま り で な い	い ど ち ら い も	重 や や 重 要 で あ る	重 要 で あ る
将来の 進路	1	2	3	4	5

②あなたについておたずねします。

性別 男 ・ 女 [当てはまる方に○]

学籍番号の下4桁 [アルファベットを除く数字4つ]

※7月に再調査を実施する際、同一人物を特定するために使用します。
個人を特定する目的では使用しません。

③現在のあなたの卒業後(4年生修了後)すぐの希望進路について、
当てはまる番号1(教員)～6(その他)のうち1つだけ○をつけて下さい。

教員	進学 留学	一般企業	公務員 (教員 を除く)	未決定	その他 ()
1	2	3	4	5	6

※以上で質問は終わりです。回答漏れがないか、ご確認下さい。ご協力ありがとうございました。
※なお、カウンセリング的面接調査のお願いもしております。ご協力下さい。

カウンセリング的面接のお願い

カウンセリング的面接は、大学生の進路に対する意識が、定期的な心理学的カウンセリングを行うことで、その後どのように変化するかを見る目的で行います。面接は、2週間に1回計5回、定期的にお会いして、あなたの進路の考え方についてお話を聞かせていただきます。その際、お話はカウンセリング的な態度で聞かせていただきます。

カウンセリング的面接にご協力いただける方は、ご氏名、電話番号、連絡の取りやすいメールアドレス(携帯電話のメール可)をお書きください。

ご氏名 []

電話番号 []

メールアドレス [@]

予備実験, 研究 1, 研究 2

面接者の技法のチェック

(分類マニュアル)

SFA技法(定義と使用目的)

<p>【例外を探す技法】 問題の起きていない時について聞く技法</p>	<p>問題が起きていない(例外の)状況について質問する。例外とは、問題が起こっていて当然なのに問題が起こっていなかったり、問題が軽減していたりする状況である。CLは問題という苦悩すべき状況下にいる場合、問題の起こっていることに注目するあまり、問題の起こっていない状況に対する注目や評価はほとんどなされていない。いわば、CLが気付いていない解決を見つけようとする質問技法。 CLの生活の中の「既にある解決」という問題が起こっていない時、さほど深刻ではなかった場面、うまくやれた時、現にあった好ましい状況について質問する。「既にある解決」を起こすために、誰が、何を、どうやって、やったのかについて、詳しく聞いた。それが解決や望ましい状況にどう繋がっているのか、どんな効果をもたらしたのかも確認する。そして、どうしたらそのような解決をまた繰り返し、拡大させられるかへと話を向ける。客観的事実よりもCLの達成可能という感覚を引き出すことが重要。</p>
<p>【スケーリングで聞く技法】</p>	<p>CLの観察、印象、予測などを1最低(最悪)~10最高(最良)の尺度で尋ねる技法。直感的なままで整理されていないCLの経験を数値で表現させる。また、CLの挙げた数値によって今後の見通しを得る。問題や困っていることの評価を具体的に数値化することでCLにとっての変化が明確に示されるようにするものである。 スケーリングクエスチョンを使って、現状の評価、それまでの改善の確認や現在にまで至ることができたそれなりの改善の経過について聞く。さらに、今後の進展、改善、次のステップについて語ってもらう。 スケーリングで聞く技法単独で用いられるだけでなく、場面間の対比によって、既に起こっている解決を明確にしたり、具体的に今よりも少し(1つだけ評価を上げる)良くなった時のイメージを引き出したり、そのための取り組みに関する意欲や自信について言及するなど、多様な利用ができる。</p>
<p>【解決の結果を聞く技法】 その後のこと、理想像、ありたい姿、後の様子について聞く技法</p>	<p>CLの希望に沿って問題が解決した未来を仮定して、問題の解決の結果について質問する技法。もう既に問題がなくなった将来のことを想像するように方向付け、CLの目標とする解決のイメージを作る技法。面接の目標設定にもなる。 CLの目標とする解決のイメージを作るための作業ではあるが、面接者がCLがどのように解決をイメージしているのかを理解するためのものでもあり、面接目標の設定にもなる。従って、面接者は、CLが期待している解決のイメージをできるだけ丁寧に具体的にしていく作業を行う。</p>
<p>【対処を聞く技法】 具体的行動、方法を聞いたり、対処行動を指摘し尋ねる技法</p>	<p>今までの対処法や例外の状況でどうやってそれが維持されたのか、今後どのように対処するかについて尋ねる技法。今までやってきた(これからやりたいと思う)具体的方策の有無や内容を尋ねることも“対処を聞く技法”に含む。 対処を聞く技法は、解決の結果を聞く技法や例外を探す技法と組み合わせて使われるが、賞賛と組み合わせて使うこともできる。賞賛と対処を聞く技法を組み合わせて聞くことは、CLをエンパワーする。 SFAでは変化を生み出す実践を重要視しているため、現実的、実践的な対処法を見出すために、詳細に丁寧に聞く。</p>
<p>【賞賛】</p>	<p>CLがやっていることでうまくいっていることについて、CLの努力や意欲をポジティブに評価し確認する。CLの行動に敬意を表し、評価すること。CLがやっていることでうまくいっていることについて、CLの努力や意欲をポジティブに評価し確認する。 賞賛は、CLの行ってきた行動や意図に敬意を示して評価することで、努力や意欲、行動などを肯定的に評価し、労をねぎらうというニュアンス。賞賛の対象となるのは、うまくいっていることだけではなく、何気なくやてちることを賞賛することで十分な介入となる。 賞賛には直接的と間接的の2種類がある。直接的とは、肯定的評価、世間一般の「褒める」と同義。相手に対して直接的によい評価を伝えること。肯定的反応、「ほー」「へー」といったいい意味での驚きや賞賛を示す反応。間接的とは、CLの何か肯定的なものを含んで賞賛すること。</p>

SFA技法(質問例)

<p>【例外を探す技法】 問題の起きていない時について聞く技法</p>	<p>「あなたが望む状態に少しでも近いことは、最近ではどんなことがありましたか」 「問題が起こる時とそうでない時では、どのような違いがあるのでしょうか」 「少しはましかったこと、何とかうまくやれたことはいつありましたか」 「いつもだったら問題が起こってもよいはずの時に、問題が起こらなかったり、軽く済んだりした時はないでしょうか」 「解決の状態に似たようなことは、最近ではどんな時に、どんな状況でありましたか」</p>
<p>【スケーリングで聞く技法】</p>	<p>「現在の状態は、1から10のスケールでいうと、どれくらいでしょうか」 「1を最低(最悪)、10を最高(理想的)な状態として、今はどのくらいですか」 「スケールが1だけ上がったら、今とどんなことが違って来るでしょうか」 「最悪の時から今の状態にまでやってこられたのは、何がよかったのでしょうか」 「1がここへ最初に来られた時、10がもう何かやっていた時だとすると、今はいくつですか」</p>
<p>【解決の結果を聞く技法】 その後のこと、理想像、ありがたい姿、後の様子について聞く技法</p>	<p>「どんなことから、問題が解決したことが分かるでしょうか」 「あなたが思った通りに変わったことに、誰が気付きますか」 「思ったとおりの結果が得られたとしたら、何によってそれが分かりますか」 「その問題が解決したとしたら、あなたの生活はどうなっているでしょうか」 「少しは解決に向っていると感じられるとしたら、どんなことからでしょうか」 「これからちょっと変わった質問をします。もし今夜あなたが眠っている間に奇跡が起きてあなたの問題が解決してしまったとします。でも、あなたは眠っていたので奇跡が起こったことを知りません。明日の朝、目が覚めた時、あなたはどんな違いから奇跡が起きて問題が解決したことに気付くでしょうか」 「よりいい方向に進み始めた兆候、兆し、サインはどんなもの、どんなことでしょうか」 スケーリングで聞く技法と合わせて…「今は仮に3だとすると、3が4、5になった時には、どんな違いがあると思いますか」</p>
<p>【対処を聞く技法】 具体的行動、方法を聞いたり、対処行動を指摘し尋ねる技法</p>	<p>「どうやって状況がさらに悪化しないようにしているのですか」 「どんな工夫をしたり、どんなことに気を付けたりしていましたか」 「何がよかったのでしょうか。どんなことがあったからそれができたのでしょうか」 「こんなに大変な中で、一体どうやって何とかやってこられたのですか」 「どうやったのですか」 「とりあえず何かここまでやってきたのは、どんなやり方でやってこられたのですか」 「いったいどうやって問題が起こらない解決の状態になったのでしょうか」 スケーリングで聞く技法と合わせて…「今は仮に3だとすると、3になるためにどんな努力をしましたか」 スケーリングで聞く技法と合わせて…「今は仮に3だとすると、3が4、5になるためには、どんなことをする必要があると思いますか」</p>
<p>【賞賛】 肯定的反応</p>	<p>「ほー」、「へー」「それっていいですね」「よかったですね」「すごいですね」「よくやりましたね」</p>

研究3

グラウンデッド・セオリー・アプローチ (GTA)

《 ワークシート 》

概念 1	解決設定性
定義	質問の仮説設定を受け入れられるかどうか。仮説設定を重ねて、仮説設定に乗った話を続けられる。仮説設定にスムーズに乗れる。質問に含まれるポジティブな仮定に乗れない。質問の仮定に十分に乘れず、答えられない。
バリエーション	<p>A 不安がなくなる。【質問どおりに答えている。質問の仮定を受け入れた。が、閉ざされた質問に対する答えと同じような答え方。】③ 行動へ移したい。【仮定の仮定の質問に答えている。仮定に乗って答えられている】④</p> <p>B できるかは分からないがうまく付き合う。【質問に答えている。具体性には欠ける。繰り返している。できない可能性も示唆しながら、できたらという仮定に乗っている。】② ダラダラしないで将来の話をする。【質問に答えている。質問の前半部分の仮定にだけ乗って答えた。複数の変化を答えた。独立してて関連性はない。】②</p> <p>C 今すべきことをしたい。【質問に答えている。具体的でない。質問に半分しか答えていない。】② 他の勉強をしたり、新聞を読むようになる。【質問に答えている。質問の仮定に乗っている。他の面への波及効果について、例を挙げて答えた。】③</p> <p>D 生き生きしてくる。【質問に答えている。感覚的な答え。質問の仮定を自分で言い換えて、仮定に乗って答えようとしている。】③</p> <p>E 調べ考えて実践する。【質問に答えている。困難を予想させるような答え方。】②</p> <p>F やると決めたことを守る。【質問に答えている。が、仮定にすっぽり乗っかるわけではなく、これからこうしたいという決意を表明するような感じ。】②</p> <p>G 留学費の準備。【質問に答えていない。現状の問題について答えた】②</p>
理論的メモ	<p>ポジティブな仮説設定を受け入れられない場合、質問の仮定に十分に乘れず、半分しか乗れていないことも。</p> <p>大概、どの応答にも当てはまるのではないか。</p> <p>仮説設定に乗れるかどうかは、答えられるかどうかの大前提のように思われる。</p>

概念2	適切性
定義	質問の内容に十分則して答えているかどうか。質問に対し、的確に適切に答えているかどうか。
バリエーション	<p>A 周囲と楽しく接する。【質問に答えている。質問に適切に答えている】② 夫婦の平等な関係。【質問に答えている。質問から理想を答えることが分かっている】③</p> <p>B 次の段階に進めるかもと期待している。【質問に答えている。自分に対する理解が深まれば、行動を起こせるだろうと考えている。正しく答えようとして言葉を選ぶ。】③</p> <p>C 興味のなかった職種にも関心を示す。【質問に答えている。漠然としている。質問に半分しか答えていない。十分には答えていない。】② 10月から始める。【質問に答えている。漠然とはしているが、見通しを持って答えた。質問の意図を十分に答えていない。想像を展開できない。】⑤</p> <p>D やりたいという曲がらない強い意思。【質問に答えている。他者との関係性で答えている。】④</p> <p>E 元気で集中して過ごす。【質問に答えている。】④ 一緒に悩みながら作る。【質問に答えている。】③</p> <p>F 急いで学校へ行く。【質問に答えている。】②</p> <p>G いろんな所に行きたい。【質問に答えている。細かく聞いていってやっと答えられる。】④</p>
理論的メモ	丁寧な答えようと言葉を選んで答えようとする。 質問の答えになっていない場合がある。質問の内容とは異なる答えになっている。 質問の意を汲まず、答えになっていない。

概念3	具体性
定義	具体的、明確（⇔漠然、曖昧）に答え、具体例を挙げたり詳細に説明する答え方。
バリエーション	<p>A</p> <p>今と同じようにプラスに考えているだろう。【具体的内容には触れず。】② 分からないことを明確にして努力する。【明確でないけど意欲的。獲得する努力を表明。】② 周囲と楽しく接する。【質問に適切に答えている。】③ 余裕ができて周囲と遊ぶ。【具体例を挙げながら答えた。】③ 就いている職業。【一言で答えた。】③ 1日の家庭生活の営み・生活行動。【広い質問にも細かく具体的にイメージして答えた。】③ やりたい仕事。【仕事の内容について、具体的に答えた。】③ 1日の仕事の流れ。就業（勤務）の様子。【広い質問にも細かく具体的にイメージして答えた。】③ 1日の仕事の流れ。就業（勤務）の様子。【具体的に答える。イメージが明瞭。】③ パートナーへの期待。【質問に答えているが、漠然として抽象的。】③ いろいろ充実する。【他のことも色々変わってくるだろうと予測している。明確ではないが、前向きな回答。】③ 両方とも一生懸命やると決意の表明。【どうやっていくかや内容は具体的ではないが意欲的。自分の考えを織り交ぜ今後努力するという決意を表明。】⑤</p> <p>B</p> <p>できるかは分からないがうまく付き合う。【具体性には欠ける。繰り返している。できない可能性も示唆しながら、できたらという仮定に乗っている。】② やる気が出る。【具体的ではない。漠然と気持ちの変化で答えている。】② 具体的に思い浮かばないが、スポーツ選手と接する仕事で活躍しているかも。【仕事の職種まではイメージするが、具体的ではないけどイメージはある。活躍できているイメージを強調している。】③ 症状や悩みのある人【質問に答えている。が、質問でたずねていない方も答えている。“どんな人”という連想でつながった様子。】大人と接する仕事をしている【考えながらもイメージがすぐに具体的に出てくる。】心理療法を行っている。【誰に何をしているか、イメージがクリアに。自分がこれまでに話したイメージを整理してまとめて答えている。】病院で働く。【期待。以前、イメージできなかったことが答えられている。】③ 働いてみたい領域。【質問には答えている。が、具体的な場所や施設を挙げない。漠然。働いてみたい異なる2つの領域で答えている。T9と変わらず。】④ 話しやすい楽になる心理士になりたい。【具体例を混ぜながら、理想を答えている。】④ スポーツ心理学の本を探して読む。【具体的な行動レベルで答えている。行動の理由も</p>

丁寧に答えている。】④

目標を達成するための行動を起こす。【移すべき行動として順序立てて、次から次へと答えている。具体的で現実的。】⑤

C

接客業。【漠然とはしている。】①

今すべきことをしたい。【具体的でない。質問に半分しか答えていない。】②

興味のなかった職種にも関心を示す。【漠然としている。質問に半分しか答えていない。十分には答えていない。】②

具体的なこれからすべき対応。【具体的。】②

問題集を開くことが癖になる。【これまでの失敗経験を踏まえてそうならないように、改善するための行動を答えた。具体的。】②

言われたことをする。【具体的ではない。膨らまない感じ。】③

練習したことに満足したい。【ぼんやり、漠然としている。気持ちや感覚で答えている。】③

表情が変わる。【具体性に欠ける。一般論から答えようとしている。】③

努力を面倒くさがらないです。【抽象的。現状の説明と意味づけ（自論）を述べた。何をするかは具体的ではない。】③

毎日腹筋や一般教養・英語の勉強をする。【日常の生活レベルで身近なところで具体的に答えた。】③

葛藤しないで普通にできる。【質問に答えている。が、具体的ではない。ネガティブな面の消失という形で答えた。】③

早めに行動する。【何をするかは明確ではないが、できることをすれば、努力すれば、うまくいくだろうという期待感。】④

自分の長所に気付く。【明確。自分のこれまでの経験に基づいて答えた。】④

次のステップへ常に歩いていく。【漠然とした大きなイメージ。前向き、意欲的。気持ちはあるが、具体的なイメージではない。】④

就職活動の下準備、自分を分析する。【すぐ目の前にあるこれからしたいことを、順を追って、具体的に答えている。】⑤

ちゃんとやりたい。【明確ではないが、前向きな回答。これからの希望を決意するように答えている。】⑤

D

2つ3つの分野がぼんやり見えている。【具体的にどんな分野かは答えていない。見えていることよりも迷っている気持ちを強調した答え方。】①

演習が終わってスッキリしたら。【具体的。状況に加え、心境の変化で答えた。〇〇ではなく、△△という比較した答え方。】②

就職したその先であるだろう場面で役立つ。【曖昧。具体的ではない。大まかな予想として答えた。】②

3人で一緒にやる・参加する。【状況の説明と合わせて、抽象的→具体的に答えている。】②

発表後に3人で感想を分かち合えるような発表がしたい。【質問に答えている。が、具体的な内容に触れていない。気持ちの変化で答えている。〇〇ではなく、△△という比較した答え方。】②

色々語って気分が盛り上がる。【質問の仮定を反復し、仮定に乗ろうとまるで言い聞かせているよう(自己暗示?!)。意欲や気持ちの変化に中心が置かれ具体的ではないが、〇〇になったら△△など状況を追って推測し答えている。】③

むちゃくちゃ頑張る。【具体的ではない。前向きな答えを出したが、すぐにネガティブな推測に移っていった。】③

自分の意思を口に出して表明する。【質問に答えている。具体的。日頃の自分と比較して答えている。】③

勉強や必要なことを頑張る出す。【何か分からないが頑張る出すだろうという予測。具体的ではないが前向きなイメージ。】③

頑張るってやっていきたい。【質問に答えている。が、何を頑張るか具体的ではない。気持ちや意欲は前向き。決意表明のよう。】③

自分の思いを明確にし、知って欲しい。【具体的、明瞭。どうして欲しいか、どうするかなど行動でも答えている。】④

自分のやりたいと思っていることを言う。【質問に答えている。が、詳しくは答えられない。抽象的に答えた後、現状での例を引き出し、現状の改善として答えた。】④

E

教育現場と研究をする。【ぼんやりとしたイメージを答えた。】①

人として成長する。【抽象的。】①

子どもと触れ合い色々やる。【明確ではない。】②

勉強の教え方を工夫する。【具体的。これまでの経験を踏まえて、改善例を示して答えている。】②

叱ることができたらいい。【過去の失敗経験に基づき、ありがたい姿を答えている。具体的。】②

一緒に悩みながら作る。【答えている。】③

結果を待って、何かする。【具体的ではない。現状を説明するが、その先、具体的に何をしようかということまでは答えられない。考え中という感じ。】③

やればできる自信が付く。【抽象的、具体的ではない。気持ちや意欲の面で答えた。】

③

卒論を1人で頑張る。【質問に答えている。が、具体的行動ではない。予感、予測として答えた。】③

悪影響がないようにしたい。【ネガティブな答え方。具体例を示し、〇〇しないように、という答え方。】③

元気で集中して過ごす。【答えている。】④

やったことのないことをしたい【具体性に欠ける。】⑤

自分が何をしているか考え直したい。【答えている。】自分のやっていることに確信が持てる。【気持ちや内面の変化で答えた。内省的。】意味がある。【答えている。】のめりこむ【具体的行動や内容については触れていない。】何でも自信を持ってやれる。【漠

	<p>然としている。】もっと次の研究へ進む。【質問に答えている。が、具体的ではない。なりそうな予感で答えている。】⑤</p> <p>F</p> <p>危機感を持ってやる。【何度か質問してやっと答えられた。答えた内容は具体的ではない。】②</p> <p>決めたことはやる。【具体的ではない。】②</p> <p>けじめのある人になる。【質問に答えている。が、具体的ではない。】②</p> <p>ちゃんと学校に行く。【現状の説明、訴えに移っていった。】②</p> <p>急いで学校へ行く。【答えている。】②</p> <p>寝る時間まで勉強する。【質問に答えている。が、大雑把で細かいイメージではない。具体的ではない。】③</p> <p>G</p> <p>就職した時の生活。【細かく具体的に質問すると答えられる。】①</p> <p>遠くはないところ。【具体的ではない。】②</p> <p>自信が持てる。【情緒的な変化で答えた。具体的ではない。】③</p> <p>苦手な人とも話せる。【答えている。】③</p> <p>いろんな所に行きたい。【細かく聞いていってやっと答えられる。】④</p> <p>自信が付く。【具体的ではない。情緒面の変化で答えた。】④</p> <p>本音が言える。【具体的。現状を言ってから理想像を答える。】④</p> <p>話しかけられるようになったのを見て。【具体的。現状を言ってから理想像を答える。】④</p> <p>目標を持ってやる。【具体的ではない。漠然としている。】⑤</p> <p>打ち込めるものをする。【具体的ではないが、行動として答えた。】⑤</p> <p>自信が出る。【具体的。】⑤</p> <p>就職活動のステップになる。【質問に答えている。が、答えた内容は抽象的。】⑤</p> <p>自己アピールできる。【具体的。】⑤</p>
<p>理論的 メモ</p>	<p>具体的に答えられるかどうかは、どのデータ（答え方）にも当てはめて考えられることでは？</p> <p>質問に対し、答えが短かったり内容がないものが多い。</p>

概念 4	想像性
定義	“これから”のイメージを膨らませたり、豊かなイメージを展開させた答え方。
バリエーション	<p>A</p> <p>夫婦の平等な関係。【質問に答えている。質問から理想を答えることが分かっている。】③</p> <p>③</p> <p>1日の家庭生活の営み・生活行動。【広い質問にも細かく具体的にイメージして答えた。】③</p> <p>③</p> <p>1日の仕事の流れ。就業（勤務）の様子。【広い質問にも細かく具体的にイメージして答えた。】③</p> <p>③</p> <p>1日の仕事の流れ。就業（勤務）の様子。【具体的に答える。イメージが明瞭。】③</p> <p>③</p> <p>勉強する。【さらなる仮定に乗れて答えた。より具体的、近い未来の話、次の展開までイメージしている。】③</p> <p>③</p> <p>やるべきことをして無駄がない。【質問どおりに答えている。あらゆる可能性を考えて答えた。】④</p> <p>B</p> <p>自分にしかできない仕事をしている。【質問に答えている。広い範囲の質問でもイメージができる。前向き。】③</p> <p>③</p> <p>具体的に思い浮かばないが、スポーツ選手と接する仕事で活躍しているかも。【質問に答えている。仕事の職種まではイメージするが、具体的ではないけどイメージはある。活躍できているイメージを強調している。】③</p> <p>③</p> <p>症状や悩みのある人【質問に答えている。が、質問でたずねていない方も答えている。“どんな人”という連想でつながった様子。】大人と接する仕事をしている【質問に答えている。考えながらもイメージがすぐに具体的に出てくる。】心理療法を行っている。【質問に答えている。誰に何をしているか、イメージがクリアに。自分がこれまでに話したイメージを整理してまとめて答えている。】病院で働く。【質問に答えている。期待。以前、イメージできなかったことが答えられている。】③</p> <p>③</p> <p>話しやすい楽になる心理士になりたい。【質問に答えている。具体例を混ぜながら、理想を答えている。】④</p> <p>④</p> <p>自分から将来の話をする。【質問に答えている。相手の言動や反応まで推測・予想できる。それらに対する自身の行動を答えている。自分のやりたいことを口に出すことで、周囲への表明に繋がり、周囲に話すことで自分の変化を実感、か。】④</p> <p>C</p> <p>言われたことをする。【質問に答えている。具体的ではない。膨らまない感じ。】③</p> <p>③</p> <p>話す言葉。【質問に答えている。現実的なイメージ。】③</p> <p>③</p> <p>ある1日の理想的な生活の様子。【質問に答えている。細かい質問でイメージを膨らませて答えられる。自らイメージを膨らませて答えていくことは難しい。】③</p> <p>③</p> <p>エントリーシートに取り組む。【質問に答えている。細かく質問していくと答えられる。】</p>

	<p>ごく近い将来、目の前にあることについてイメージできる。】④ 10月から始める。【質問に答えている。漠然とはしているが、見通しを持って答えた。質問の意図を十分に答えていない。想像を展開できない。】⑤</p> <p>D 就職したその先であるだろう場面で役立つ。【曖昧。具体的ではない。大まかな予想として答えた。】②</p> <p>E 教育現場と研究をする。【ぼんやりとしたイメージを答えた。】① 結果を待って、何かする。【具体的ではない。現状を説明するが、その先、具体的に何をしようかということまでは答えられない。考え中という感じ。】③ 卒論を1人で頑張る。【答えている。が、具体的行動ではない。予感、予測として答えた。】③</p> <p>F 寝る時間まで勉強する。【答えているが、大雑把で細かいイメージではない。具体的ではない。】③</p> <p>G 本音が言える。【具体的。現状を言ってから理想像を答える。】④ 話しかけられるようになったのを見て。【具体的。現状を言ってから理想像を答える。】④ 壁が取れる。【質問に答えている。具体的ではない。情緒的な変化。現状を言ってから理想像を答える。】④</p>
<p>理論的 メモ</p>	<p>近い将来のイメージ、遠い将来のイメージなど、時間のスパンに違いがある。遠くへ飛んでいける人といけない人。 現実のとらわれから自由になれるかどうか。…仮定性 豊かな新たな観点、自分の認知を変えられるかどうか。 大きな変化を前提とする人とししない人。 現実的な予想をする。…自分の変化を前提とししない変化。</p>

概念 5	関連性
定義	質問に対する答えとして、答えた事柄に関連を持たせて答えたかどうか。(羅列的に関連しない事柄を並べる答え方。)あるいは、他の面への影響性などを考慮した答え方。
バリエーション	<p>A 理想的な先生の態度・行動【関連していない事柄を羅列的に答えた。】① 不安がなくなり、計画的に過ごす。【気持ちのレベルと行動のレベルの変化で答えている。】③ やることが決まるから気持ちが落ち着く。【現状を改善する行動の具体例を挙げて示し、それによる気持ちの変化を答えている。】③ 友人とよりよい関係でいられる。【自分の行動の改善が他の場面へも波及すると答えている。友達との関係も安定する。】③</p> <p>B 気持ちの前向きに変化する。【順々に起こりそうな変化を答えている。それぞれの変化に相互に関連を持たせながら答えている。】② ダラダラしないで将来の話をする。【質問の前半部分の仮定にだけ乗って答えた。複数の変化を答えた。独立してて関連性はない。】② 目標を達成するための行動を起こす。【移すべき行動として順序立てて、次から次へと答えている。具体的で現実的。】⑤</p> <p>C 他の勉強をしたり、新聞を読むようになる。【質問の仮定に乗っている。他の面への波及効果について、例を挙げて答えた。】③ 就職活動の下準備、自分を分析する。【すぐ目の前にあるこれからしたいことを、順を追って、具体的に答えている。】⑤</p> <p>D 文章力や読解力。【羅列的に答えた。】①</p>
理論的メモ	<p>順を追って予想したり、他の場面へも波及するなど、イメージの流れがスムーズである。1つの質問で被験者によって想像が次々と進む。</p> <p>一方、羅列的な答え方では、関連を持たせておらず、1つ1つが独立している。前向き。</p> <p>気持ちの変化の内容より、具体的な行動の内容を詳しく答えている。</p> <p>情緒的な面と行動的な面との関連を持たせて答えている。</p>

概念6	意欲性
定義	質問に対し意欲的に答えたかどうか。意欲を持って答えたかどうか。ああもしたい、こうもしたい、と。気持ちや感情に重点を置いて答えた。意欲を全面に出して答える。
バリエーション	<p>A</p> <p>分からないことを明確にして努力する。【明確でないけど意欲的。獲得する努力を表明。】②</p> <p>色んなことにやる気が起こる。【何をするかは関係ない。色んなことにやる気が起きる。】③</p> <p>やるべきことを見つけない。【質問に答えるために、現状を説明している。】③</p> <p>行動へ移したい。【仮定の仮定の質問に答えている。仮定に乗っかって答えられている。】③</p> <p>いろいろ充実する。【他のことも色々変わってくるだろうと予測している。明確ではないが、前向きな回答。】③</p> <p>やる気になる。【気持ちの変化に重点を置いて答えている。】⑤</p> <p>両方とも一生懸命やると決意の表明。【どうやっていくかや内容は具体的ではないが意欲的。自分の考えを織り交ぜ今後努力するという決意を表明。】⑤</p> <p>B</p> <p>気持ちの前向きに変化する。【質問に答えている。順々に起こりそうな変化を答えている。それぞれの変化に相互に関連を持たせながら答えている。】②</p> <p>やる気が出る。【具体的ではない。漠然と気持ちの変化で答えている。】②</p> <p>自分の本当の気持ちが分かるかもしれない。【今の自分の気持ちを分かりたい。ちゃんと答えようとして言葉を選んでる。意識（内面）の変化で答えている。ポジティブな肯定（「良い意味」）に乗って答えている。】③</p> <p>次の段階に進めるかもと期待している。【質問に答えている。自分に対する理解が深まれば、行動を起こせるだろうと考えている。正しく答えようとして言葉を選ぶ。】③</p> <p>自分にしかできない仕事をしている。【質問に答えている。広い範囲の質問でもイメージができる。前向き。】③</p> <p>実感が違う。【情緒的な面での変化で答えている。ネガティブな気持ちもあるが、それを上回るポジティブさで覆う。前向き。】⑤</p> <p>C</p> <p>意識が高まる。【抽象的。気持ちの変化で答えた。】②</p> <p>できる範囲で頑張る。【現実的というか、意欲がないというか、曖昧な感じ。】②</p> <p>練習したことに満足したい。【ぼんやり、漠然としている。気持ちや感覚で答えている。】③</p> <p>早めに行動する。【何をするかは明確ではないが、できることをすれば、努力すれば、うまくいこうという期待感。】④</p> <p>次のステップへ常に歩いていく。【漠然とした大きなイメージ。前向き、意欲的。気持ちはあるが、具体的なイメージではない。】④</p>

ちゃんとやりたい。【明確ではないが、前向きな回答。これからの希望を決意するように答えている。】⑤

D

2つ3つの分野がぼんやり見えている。【具体的にどんな分野かは答えていない。見えていることよりも迷っている気持ちを強調した答え方。】①

演習が終わってすっきりしたら。【具体的。状況に加え、心境の変化で答えた。〇〇ではなく、△△という比較した答え方。】②

発表後に3人で感想を分かち合えるような発表がしたい。【答えているが、具体的な内容に触れていない。気持ちの変化で答えている。〇〇ではなく、△△という比較した答え方。】②

色々語って気分が盛り上がる。【質問の仮定を反復し、仮定に乗ろうとまるで言い聞かせているよう(自己暗示?!)。意欲や気持ちの変化に中心が置かれ具体的ではないが、状況を追って推測し答えている。】③

勉強や必要なことを頑張り出す。【何か分からないが頑張り出すだろうという予測。具体的ではないが前向きなイメージ。】③

生き生きしてくる。【感覚的な答え。質問の仮定を自分で言い換えて、仮定に乗って答えようとしている。】③

頑張っってやっていきたい。【答えているが、何を頑張るか具体的ではない。気持ちや意欲は前向き。決意表明のよう。】③

やりたいという曲がらない強い意思。【質問に答えている。他者との関係性で答えている。】④

E

充実感がある。【気持ちの変化で答えている。】③

やってよかったと思う。【情緒面での変化として答えている。】③

やればできる自信が付く。【抽象的、具体的ではない。気持ちや意欲の面で答えた。】

③

新たな行動を起こす。【質問に答えている。積極的な行動。これからしていきたいことという能動的な回答。】④

自分が何をしているか考え直したい。自分のやっていることに確信が持てる。【気持ちや内面の変化で答えた。内省的。】意味がある。のめりこむ【具体的行動や内容については触れていない。】何でも自信を持ってやれる。【漠然としている。】もっと次の研究へ進む。【答えているが、具体的ではない。なりそうな予感で答えている。】⑤

F

楽になれること。【質問に答えている。答えながら、自分のできなさの話に移っていった。】①

やると決めたことを守る。【答えているが、仮定にすっぽり乗っかるわけではなく、これからこうしたいという決意を表明するような感じ。】②

安心し自信に繋がる。【情緒的な変化で答えた。】③

	<p>自分から勉強したい。【質問に答えている。】③</p> <p>G</p> <p>頑張っていける気持ちになる。【情緒的な面での変化として答えた。】②</p> <p>自信が持てる。【情緒的な変化で答えた。具体的ではない。】③</p> <p>自信が付く。【具体的ではない。情緒面の変化で答えた。】④</p> <p>壁が取れる。【具体的ではない。情緒的な変化。現状を言ってから理想像を答える。】④</p> <p>自信が出る。【具体的。】⑤</p>
<p>理論的 メモ</p>	<p>質問の仮定に乗って、適切に答えている。</p> <p>前向きな内容の答え。</p> <p>詳しくは答えられていない。</p> <p>内容は具体性に欠けることが多い。</p> <p>何をするかまでは分からないが、漠然とした気持ちや感情の高まり・変化として答えている。</p>

研究 3

カテゴリの評定基準一覧

<解決設定性> 評定4

質問の仮定に乗って、仮定を重ねて、仮定に乗った話を続ける。仮定にスムーズに乗れる。

T31：実行ができたなら、その次はどんなことをしますか？4-3	C31：【複数の仮定、仮定に乗った行動。】えっと、実行、勉強することが見つかったら、勉強し始めてから、えーなんだろう、次は…、今はとりあえず今は教員採用試験の勉強を始めないといけないと思っているけど、一般採用とかも考えているから、企業を探すっていうか、研究したり、エントリーシートの書き方とかも勉強しないとイケないかなって。
T22：企業に就職した場合はどういう生活になると思いますか？3-8	C22：【複数の仮定】それから、えっと。まず朝礼とかがあつて、自分の資料とかを集めたり外を歩いたりして、で、思いついている案とかをまとめて、説明資料とかを作ったりして、他のいろんなお弁当とかを調べたりして、作る人と話して打ち合わせをしたりして。
T10：施設に勤めている場合は、どんな人と接しているイメージがありますか？3-5 T11：もう少し具体的にイメージすると、どんな人を対象に？3-5 T12：その人たちに対して、KSさんはどういうことをしていると思いますか。3-5 T13：どういうところで働きたいなと？3-5	【仮定を重ねて、仮定に乗った話を続ける。】 C10：えっと、ま、どんな人と接しているかといいますと、僕のイメージとしてはうつ病とかそういう、イメージですか、そういう症状を持った人と接しているのかなって思っていたり。スポーツにしてもやっぱりスランプとかに陥ってすごい悩んでいる選手とかのサポートとかをしているのかなと思ったり。 C11：そうですね、僕はイメージとしては大人を相手にしているイメージのほうが強くて、なんていうんですかね、子どもよりは大人のほうのイメージが強いですね、えっと中高年とか、そういう。 C12：ま、この前、認知行動療法に興味があると言ったと思いますけど、やっぱりそういう認知療法とか行動療法とかの、知識を生かしてそういう中高年とかうつ病を抱えている人の相手をしているようなイメージはありますけども。 C13：そうですね、えっと、病院の中とかで働けたらいいかなという気持ちもありますね。

<解決設定性> 評定3

辛うじて仮定に乗って、とりあえず答えることはできている。仮定に乗ることに戸惑う。

T9：自分のやりたいことが決まって、将来のことを相談したら、自分がどう変わると思いますか。3-2	C9：【仮定にすんなりとは乗れなかったが、乗って答えることはできた。】やりたいことが決まって相談ですか、自分が今どう変わってですか、やりたいことが決まって相談したらなんかもっとそれについて色々語ることもあるだろうし、話すこともいっぱいあるだろうし、そうやって色々友達に話して気分が盛り上がったならまた頑張ろうって思ってそれに向かって頑張るかもしれないし。
T14：取捨選択できたら、今とどういうところが違ってきますか。3-7	C14：【仮定に乗れたが、仮定話だけでおれず、現実の話へも降りて行った。仮定に乗った話はやや少ない。】すごいやる気が全然違うと思うし、今この時間を無駄にしているかもしれないって思いながらするのは、これはちゃんと自分がしたいことに役立つんだと思ってするのは全然違うと思うし。なんか、今は、その友達に電話したのは月曜で、その日は全部教育学の授業で、それでなんか、教員になるためにはこうこうこうじゃなきゃいけないとか、生徒の気持ちを分るには、どうしなければならぬみたいな感じの授業がずっとあって。それをずっと聞いている時に、ああ、私は、先生になりたいのかよく分からないのに、こんなのを聞いていいのかなというか、っていうのをずっと思っててその子に電話したんですよ。だからそういうのがなくなるかなっていうか。
T19：周囲の人は、KSさんのどういうところで、KSさんの変化を見つけるでしょうか。4-4	C19：【仮定にすんなり乗れなかったが、切り替えて答えられた。】どういう行動でですか、そうですね、いや、でも、気が付くかどうか分からないですね。人前であんまり勉強していないほうです。でも、友達と将来の話をするとき最近考えが固まってきたねとかってたまに言われるかもしれないし。この前までは全く埒が明かないよとかって言うていたんですけど、今は自分の目指したい領域ってというのがちょっと固まっていますから、そういう話をしていたらこの前と違って違うねって言われるかも。

<解決設定性> 評定2

ポジティブな仮定に乗れない。質問の仮定に十分に乘れず、仮定のうち半分しか乗れていない。

T10: 話して得るものがあつたら、それからどうなりますか。3-3	C10: なんかもう、すごいむちゃくちゃ頑張る。でも、なんか、そこまで自信を持って多分これになりたいっていうのは、決まらないんじゃないかって思う。結構、これに絶対になりたいんだって思って友達に言ったとして、え?って言われたら、え!とって、考えると思うんですよ。だからそこまで、え?って言われても、嫌絶対にだ!っていう、くらいに、になりたいっていうか、すごいやりたい仕事っていうのは、見つからないのかなって。
T24: 仕事を終えた後は、どうしているのでしょうか? 3-10	C24: 【ポジティブな仮定に乗れない。】(帰宅は) …8時、んー、で。遅いですよね、んー、ああ、何か、やっぱりそういう仕事をしていたら難しそう、家庭が。そしたら、迎えに行ってもらおう。あ、でも、自分で迎えに行つて、ご飯とかは簡単なものになりそう。
T4: 目標が決まって、勉強に対する意欲が出てきたら、例えば生活面では、今とどういう風に違っていると思えますか? 2-4	C4: 【質問の仮定のうち、半分しか答えていない。】えっと、生活の中でですか、そうですね、んー、まず、目標が決まってくるとやっぱり、なんていうんですかね、今ダラダラしている時間を見直すことができるのかなって気がしますし、あと、目標が決まると多分、他の人とかにも僕はここに行きたいんだとって話せるようになってくるから、積極的に将来の話とかをもっとするようになるのかなって。

<解決設定性> 評定1

質問の仮定に乗れない。

T35: 新聞の試読を始めて、夜に読むとなると、夜の時間の使い方はどう変わると思えますか。5-5	C35: 【新聞を読むという仮定に乗っていない。】そうですね、だから自分でもどうなるかな、果たして時間があるのかなとか、ちょっと不安な面もあつたり、やらなきゃいけないことはたくさんあつて、きりはないけど、その中にどこまで新聞の時間っていうのを優先させるべきかなって。
T12: HYさんとしては、どういう風な結婚がしたいとか、イメージはありますか。3-1	C12: 【結婚をするという仮定に乗れていない。】んー、っと、私はなんか結婚はしたいんですけど、今の感じでは自分にはできないかなってというのがすごくあつて。
T3: その研究室でこれからどんなことをしていけたらと思えますか? 2-1	C3: 【研究室の説明が続く。】その研究室ではずっとやっていることがあつて、スポンジケーキとか、砂糖を違う糖類に変えてとかいう研究があつて。

<適切性> 評定 4

質問の内容に十分則して答えている。言葉を選んで答えようとする。

T8 : HYさんの変化を周囲の人が感じる としたら、どんなところから？ 2-6	C8 : 【十分則している。】そうですね、周りとの接し方も前よりも楽しくできるようになって。
T32 : エントリーシートとか企業分析 をしたら、今の自分と何が変わって いる？ 4-4	C32 : 【十分則している。】どんなこと…？今の不安とかが少しはなくなって、1日1日とかを計画的に過ごせるようになるかも。
T7 : 自分はどのような不安を持って いて、どのような気持ちなのかという ことが分かったら、今と変わってくる ことって何ですか。 3-2	C7 : 【言葉を選んで答えている。】んー、ま、えっと確認といいますかね、自分は今不安に思っているんだということが確認できたので、あの、なんていうか、次の段階に進めるといいますか、じゃ次に何をしなきゃいけないかということがもしかししたら見えてくるかもしれないですし、なんていうんですかね、もしかししたら次のステップに進めるかなっていいですか、自分の中で気持ちの整理がちゃんとそこについて、次の行動に移れるかもしれないなっていう気持ちもありますし。えっと、分からないことが自分でも分かることがあるかもしれないってのもあるんで、その辺は期待しています。

<適切性> 評定 3

質問には適切に答えているが、的確さや説明が漠然としていて、やや不足している。

T15 : 満足できて、自信が付いたら、 周囲の人はTMさんのどんなところから その変化に気付くと思いますか。 3-5	【目がどういう風になるか、漠然としている。】 C15 : そうですね、表情とかですかね。やっぱなんか、人が変わる時って、目が変わるじゃないですか。
T16 : 目がどういう風になると 思いますか。 3-5	C16 : 目が輝いていて、見たら、何かあるじゃないですか。今まで、なんか、人が変わったら見て分かるじゃないですか。
T19 : 夜に勉強できる時間が持てたら、 THさんにとってどんな良い影響が 起こりますか？ 4-2	C19 : 【良い影響は「自信に繋がる」と漠然としている。】勉強していたら安心するじゃないですけど、やったっというので自信に繋がるかなって。
T33 : そのボランティアを3週間してみたら、 3週間終わった時点で今とどんな ところが違っていると思いますか？ 5-3	C33 : 【質問の答えとして、やや的確ではない。】んー、ちょっと自信が出ると思う。やり遂げたっという。自分で立てた計画どおりにできたら、そういうのも自信になると思う。

<適切性> 評定2

質問に答えようとしているが、質問の意を汲んでいない。質問に即して、答えていない。

T7: 自分としては、本当はどうやっていきたいですか? 2-5	C7: 【説明が足りなく、具体性に欠ける。質問に即していない。】自分としては、やっぱり目標がちゃんとあるので結果を、何か、いつもこう危機感を持ってじゃないですけど、ちゃんと、ちゃんと、やらないといけなくて。
T5: 他に、ガイダンスに行ってみて、自分はどう変わりたいですか。2-3	C5: 【質問の“変わりたい”ではなく、“あったらおもしろい”という答え。質問に即していない。】ああ、んー、どんな人が話されるのかもよく覚えていないんですけど、でも教育学部の方の就職ガイダンスは企業の方が誰かが来られると思うんですよ。だったら企業の話とかを聞いたら、今、自分があまり興味がない職種で面白そうかもとか、こんな職業があるのかなってというのがあったら面白い。
T4: 目標が決まって、勉強に対する意欲が出てきたら、例えば生活面では、今とどういう風に違っていると思いますか? 2-4	C4: 【質問に即していない。半分のことしか答えていない。】えっと、生活の中でですか、そうですね、んー、まず、目標が決まってくるとやっぱり、なんていうんですかね、今ダラダラしている時間を見直すことができるのになって気がしますし、あと、目標が決まると多分、他の人とかにも僕はここに行きたいんだとかって話せるようになってくるから、積極的に将来の話とかをもっとするようになるのかなって。

<適切性> 評定1

質問に答えていない。質問の内容とは異なることを答えている。

T34: いつ頃から(就職活動に)取りかかれるのが理想ですか。5-4	C34: 【理想を質問しているが、日々のことしか答えていない。】そうですね、暇があればとは思いますが、今テストが始まって、あと卒論のテーマ発表があるんですけど、だからこう後回し後回しに、とりあえずニュースとかは毎日動くものだからそれは毎日見るようにしているんですけど。最近、日経のHPと私は京都に就職したいと思っているので、京都新聞のHPを見たりとか。
T20: THさんが目指すところ、こうしたい自分ってのは? 4-3	C20: 【理想を質問しているが、現状の言い訳に終わった。】努力しようとするけど続かない、時間がないとかバイトが忙しいとか、やる気にならないとか言い訳して。
T2: (T1に引き続き、理想の教師像は)他にありますか? 1-2	C2: 【質問の“理想”とは、反対のことを話している。】あ、それで理想の教師とかって言うので思ったんですけど、私は中学校がすごく荒れた学校で生徒がすごい怖いイメージがあって、先生は話も聞いてくれないし、泣いている先生もいっぱい見えてきて、それでそれも自分の中ですごい印象に残ってて、ああ、絶対先生なんかになれないって。

<具体性> 評定4

具体的な例を複数挙げて答える。事柄を詳細に明確に答えた。

T21: 会社に勤めた場合は、どんな会社に勤めているでしょうか。3-7	C21: 【具体的に詳細に答える。】食品会社。企画の部署で。お弁当の。ヘルシーなお弁当、若い人が好きそうな。おかずとかデザインとか。お弁当の開発。
T18: 理想の臨床心理士になるために、今、理想に向けてどういうことができたらいなと思いますか。4-3	C18: 【具体例を複数挙げて答える。】えっと、1日やっぱりちょっとずつでもいいから何か身につけていきたいなっていう気がして、やっぱり授業のある期間ですから、授業があるときは授業を聞いてしっかり聞いて、ちょっとでも自分の身に付けるような意識で頑張って、で、まだまだ知らないところがたくさんあるんで、例えば自分はスポーツ心理学関係のことを勉強をしたいんだったら、授業ではないから自分でその領域の本とかを探して読んだりすることもできるなと思いますし。今思ったんですけど、もっともっと本読まないといけないなって思ってるんですよ。少しでも本を読めるようにしたいですね。
T32: 今回もらったプリントをして、これからは何をしよう？5-2	C32: 【具体例を複数挙げて答える。】そうですね、やったら、とりあえず、客観的に見て、次のステップというか、多分なんかいろいろ、自分史みたいな自分の履歴書みたいなのかを書いて、エントリーシートとかに書くためにそういうのをやるから、ちゃんとそれができていったら文章を書く練習とかもあるだろうし、という感じなんですけど。

<具体性> 評定3

具体的に答えようとして、具体例を1つは挙げて答える。

T6: 10~15年後、院を出てからのことを、今日ここでお話を聞いていくと、今後のKSさんにとって、どんな良い変化がありそうですか。3-1	C6: 【具体例を1つ挙げて答える。】えっと、んー、ま、ここで今、ま、自分がちょっと漠然と不安に思っていることとかを口に出して話すことで、えっと、聞いてもらうことで、ま、何ていうんですかね、ま、今自分がどういう風な不安な気持ちを持つてるのかっていうことが、自分でももう一回確認できるっていうのが、あるかもしれないし。
T25: 英語に関してはノルマを決めて、1日何ページやる。そうすると、他のことへはどんな影響があると思いますか。3-12	C25: 【具体例を1つ挙げて答える。】多分、ある。その問題集の話も別に英語に限ったことじゃないし。たとえば、新聞を毎日絶対読むとか、そういう風にいろんなことに影響は及ぶと思うんで。
T6: うまくやるっていうのは、どういう風にやれたらいいなあとありますか。2-3	C6: 【具体的な事柄を1つ挙げて答える。】なんか、こう、うまくこう、糸を引いてじゃないけど、3人がなんとかうまくやれるように、私はこうしようよとか引っ張っていけないから、この2人がすんなり仲良くないから、仲良くないっていうか、男の子と女の子だからあんまり親しくなかった2人でだから、まあ、あんまり私が抜けて2人だけでしないようにするとか。

<具体性> 評定2

明確な具体的な例が1つも無いが、具体例を挙げようとして、言葉で辛うじて表現し補っている。

<p>T8: 10年後、20年後っていうのは、自分としてはどういうことをしたいとか、どんなビジョンがありますか？ 3-3</p>	<p>C8: 【「自分にしかできないこと」は明確ではないが、説明で補おうとする。】 えっと、やっぱり、自分にしかできないことっていうのをやりたいなっていう気がします。なんていうんですかね、せっかく大学まで来て心理学を勉強させてもらっているわけですから、仕事をするにあたっては、自分の専門としている分野のことを活かせたらなあ、僕にしかできない、僕だからできるんだっていう仕事をやりたいなって考えています。</p>
<p>T18: 演奏会がうまくいったら、今とは違うどんなことをしていると思いますか。3-7</p>	<p>C18: 【「違うこと」とは何か明確ではない。】 なんかやっぱり、練習はし続けたいいけないじゃないですか。すごい努力をしないといけないことで、しかも合格ラインみたいなところじゃないですか、やればやるほどうまくなるし、そこまで達成したらOKっていうものがないものを、やり続けることだから、そういう意味では、違うことについても、うまく、うまくじゃないけど、そういう努力を面倒くさがらずにできたらいいな。</p>
<p>T35: 他には？友達との関係もよくなったら、他にどんな変化が？4-7</p>	<p>C35: 【「ちゃんとうまく」、「キッチリ」ぼんやりして具体性が欠けている。】 不安がなくなったら…、いろいろ充実してくるかなと思いますけど。時間をちゃんとうまく使わないといけない分、他のこともキッチリできるようになってくるんじゃないかなって。</p>

<具体性> 評定1

具体例はない。抽象的、説明不足、漠然としていて、状況の明確な表現が乏しく、理解するためにもう一度質問を重ねなければならない答え方。

<p>T7: そういう風にうまくやれるようになったら、どういう発表ができそうですか。2-4</p>	<p>C7: 【説明が不足していて状況が伝わらない。】 発表になったら、なんか発表の内容がよく分からないんですけど、3人で終わった後に、まあよかったよねとか、あの人がああだったからこうだとかならないで、3人でだめだったよねとか、ああよかったねとかあったらいいなって。</p>
<p>T5: もし、別の研究室に行っていたら、今とどこか違っていませんか？2-3</p>	<p>C5: 【抽象的で具体的内容に触れて答えていない。】 ああ、でも、それはそれで諦めというか、そっちでプラスに考えていたのかなとも思うんですけど。</p>
<p>T11: 定期演奏会が終わった後、どんな風になっていた？3-2</p>	<p>C11: 【漠然としている。】 満足したいですね。ああ、よく練習したって。</p>

<想像性> 評定4

想像が豊かに前向きに明確に膨らむ、広がる。さまざまな角度から、あらゆる状況をも想像する。

T36: 教材が見つかって、これを勉強しないといけないんだっていうのが分かったら、その空きコマの時間は? 4-8	C36: 【休憩時間の使い方を2つの局面からとらえた。】その教材をして、すると思います。それか、その分、それ以外の時間でも勉強したりしてて休憩したいなど思っていたら、今のダラダラした空きコマよりもちゃんと休憩として楽しく使えると思うんですけど。無駄じゃなく。
T19: 10年後の生活パターンを朝から順番に考えてみませんか。3-5	C19: 【想像が豊かに明確に膨らむ。】朝起きて、朝ごはんは作って、洗濯は回しておいて、自分で干して、あ、子どもを連れて行ってもらって。理想としては連れて行ってもらって、自分が先に家を出て、連れて行って帰りは自分が迎えに行き、で、家で子守をしてもらってご飯を作って、で、お風呂とかも入れてもらって、家事をして、たたんだり片づけをしたりして、子どもを寝かして、2人で話をしたりして。
T21: ご両親は、どんなところからKSさんの変化に気が付きますか。4-6	C21: 【場面の展開を追って、自分の言動・相手の反応まで想像する。】そうですね、自分の親はやっぱり、今1人暮らしですから普段は全然会わないんですけど、たまに実家に帰って時に、親も聞いてくると言うんですよ、将来のことを。その時にこういうことで、こう領域でやってみたいんだって言ったら、少しは考えが固まってきたんだなって言ってくれるかもしれないですね、両親は。

<想像性> 評定3

豊かではないが前向きな想像ができる。やや明確さに欠ける。

T35: 友達との関係もよくなったら、他にどんな変化が? 4-7	C35: 【前向きに想像するが、やや明確さに欠ける。】不安がなくなったら…、いろいろ充実してくるかなと思いますけど。時間をちゃんとうまく使わないといけない分、他のこともキッチリできるようになってくるんじゃないかなって。
T38: 他にどんなところから気が付いてくれそう? 4-10	C38: 【想像できるが、さほど展開しない。】ああ、…積極的になったりするかな。…いろいろ不安、今はいろんなことがぼんやりしていて、でも何か頑張っていることがあるときとか、そういう時はすごい積極的になれるような気がするんですよ。何にしても、授業の中でも発表の時とかでもそういう充実している時とかは意見とかも言えるから。
T16: 将来どういうところで働いたらいいなあっていうのは? 4-1	C16: 【前向きに想像するが、やや明確さに欠ける。】そうですね、やっぱりあの、医療関係っていうか、病院の中で働いてみたいなっていう気持ちと、それと同時に、自分はスポーツにもちょっと関わっていますから、やっぱりスポーツ選手を相手にするような環境でも働いてみたいなという気持ちで。そういうところですね。

<想像性> 評定2

想像するが、膨らまなかったり、ぼんやりとしていて曖昧なイメージ。明確さに欠ける。

T2：自分の将来やりたい仕事のイメージが、ぼんやりとでも何か見えたりしますか。1-2	C2：【ぼんやりしている。想像が膨らまない。】ぼんやりと見えてたりもするんですけど、そういう仕事が本当にあるのかっていう感じだし、こう何か、いろんな2つか3つくらいの分野でこっちがいいかこっちがいいかっていう感じ。
T27：1時くらいに寝て、7時~7時半に起きることができたら、次はどうなりますか。4-3	C27：【想像が膨らまない。】次は、授業とか昼間とか、もうちょっと元気でいられるかな。空きコマに何かするにしても、ま、集中できるかなとは思いますが。
T24：理想としては、どんな風にできたらいいなと思いますか。3-11	C24：【曖昧なイメージ。明確さに欠ける。】だから理想は、そんな葛藤しないで普通にできるようになればいいですけどね、好きなことと同じように。

<想像性> 評定1

想像できない。イメージが浮かばない。今、現在のことだけで、想像できない。

T29：8月はどんなバイトをしよう？5-1	C29：【想像できない。】えーっと、今までやってきたことのないようなものをやってみようかなと思ったんですけど、まだちょっと全然探してははいです。
T26：残された時間はない、ということですが、今後どうありたいですか。4-1	C26：【今、現在のことを答えていて、想像していない。】あとは早めに早めに行動しないとイケないなど。その講演をされた人が、やっぱり就職は難しいけど、できる人はやっぱりできるから何個も内定がもらえるって、まあそれは納得なんですけど、そういう人たちは、面接の時期までに、自己分析とかそういう本当に準備しないとイケないことがちゃんとできている人たちって言われていたんですよね。なんか、それを聞いて、ああじゃあ、別になんか、もちろん才能とか性格とかもあるだろうけど、そういうことって自分でできることじゃないですか、努力したらできることをなかなか皆やれないじゃないですか、いつから就職活動を始めようとか、面倒くさいなあとか、でもそれをやっておけばもしかしたらうまくいくかもしれないなっていう気持ちにもなったんですよね。その話を聞いて。
T33：本を買ったら、これからどうしたいですか。5-3	C33：【イメージが浮かばない。】ちゃんとやりたいなど。最初から最後まで。

<関連性> 評定4

順序立てて想像したり、他の面への影響を考慮して答える。答えた事柄に関連を持たせて答える。

<p>T25：英語に関してはノルマを決めて、1日何ページやる。そうすると、他のことへはどんな影響があると思いますか。3-12</p>	<p>C25：【英語だけでなく新聞を読むという他の面への影響を答えた。】多分、ある。その問題集の話も別に英語に限ったことじゃないし。たとえば、新聞を毎日絶対読むとか、そういう風にいろんなことに影響は及ぶと思うんで。</p>
<p>T3：大学院に関する情報を集めてみたら、今とどういところが変わって来ると思いますか？2-3</p>	<p>C3：【順序立てて想像し、行動と情緒の変化を関連させて答えた。】やっぱり情報を知ることによって、ここがいんだって、目標が決まると思うんですよ。あ、具体的な目標が。そうするとやっぱり、目標が決まるとやっぱり、また勉強する意欲が出てくると思うし、それとまた今言ったように、知らないから不安になることも結構まだあると思うんですよ。だからある程度は不安は消える気がします。</p>
<p>T23：7月下旬に研究室が決まったら、今の自分とどんなところが違っていると思いますか？5-2</p>	<p>C23：【順序立てて想像し答えた。】そうですね、まず、ま、実感として、また一步段階進んだなっていう感じで、まず実感でそういうのが今までと違う実感が出てくると思うんですよ。で、そうですね、その後に、もちろんそれに伴って不安とか緊張とかあると思うし、頑張るぞって期待も大きくなると思いますし、実際に自分がその環境に置かれることが決まるわけで、実感が変わってくるのかなって思います。</p>

<関連性> 評定3

事柄の順序立てが十分ではなく、やや飛躍する。答えた事柄の関連性・つながりがやや弱い。

<p>T18：演奏会がうまくいったら、今は違うどんなことをしていると思いますか。3-7</p>	<p>C18：【他の面への影響を考慮するもやや飛躍している。】なんかやっぱり、練習はし続けたいといけないじゃないですか。すごい努力をしないとけないことで、しかも合格ラインみたいなのがないところじゃないですか、やればやるほどうまくなるし、そこまで達成したらOKっていうものがないものを、やり続けることだから、そういう意味では、違うことについても、うまく、うまくじゃないけど、そういう努力を面倒くさげらずにできたらいいな。</p>
<p>T9：自分のやりたいことが決まって、将来のことを相談したら、自分がどう変わると思いますか。3-2</p>	<p>C9：【順々に想像を続けるがやや浅く、事柄を関連させて答えているが、やや弱い。】やりたいことが決まって相談ですか、自分が今とどう変わってですか、やりたいことが決まって相談したらなんかもっとそれについて色々語ることもあるだろうし、話すこともいっぱいあるだろうし、そうやって色々友達に話して気分が盛り上がったまま頑張ろうって思ってそれに向かって頑張るかもしれないし。</p>
<p>T9：(T8に引き続き)他にもHYさんの変化を感じさせるもの、周りの人たちはどんなところから気が付くでしょうかね。2-7</p>	<p>C9：【事柄の順序立て、関連の持たせ方がやや不十分な答え方。】えー、そうですね、うーん、気持ちに余裕ができたことで、遊んだりも遊ぶっていうか、今までは悩みの話が多かったりしたけど、遊びの約束をしたり、夕ご飯食べたりとか、違う余裕とかが生まれる。</p>

<関連性> 評定 2

事柄の順序立てが単純で浅い。他の面や状況への影響性に触れるものの、どんな影響かは明確ではない。

<p>T5: 将来に役に立つっていうのは、どういう風に役に立つと思いますか。2-2</p>	<p>C5: 【他の面への影響を考慮するも明確ではない。】なんか、こう例えば、会社とかに入るかもしれないですけど、そういう時にもでそういう場面があるかもしれないし、先生とかになったとしても同じ国語科の先生3人くらいですることもあるかもしれないし。そういう時にうまくやれる人になりたいなって。</p>
<p>T13: 勉強の他にどんなことで、周囲の人はIEさんの変化を知ると思いますか。3-6</p>	<p>C13: 【事柄の順序立てはあるが、その内容が曖昧で具体性に欠ける。】えっと…、ああ、でも多分、決まれば、なんか、こう、すごい不安はあるけどそれにこう向かって進めばいいっていう方向が決まれば、なんかもっとうこう姿勢が前向きになるっていう、生き生きしてくる。</p>
<p>T35: 他には？友達との関係もよくなったなら、他にどんな変化が？4-7</p>	<p>C35: 【事柄の順序立てが単純で、内容が曖昧。】不安がなくなったら…、いろいろ充実してくるかなと思いますけど。時間をちゃんとうまく使わないといけない分、他のこともキッチリできるようになってくるんじゃないかなって。</p>

<関連性> 評定 1

結びつきの弱い関連しない事柄を羅列的に並べた答え方。関連を持たせず、個々の事柄が独立した答え方。

<p>T4: 目標が決まって、勉強に対する意欲が出てきたら、例えば生活面では、今とどういう風に違っていると思いますか？2-4</p>	<p>C4: 【2つの事柄を関連を持たせず独立させて答えた。】えっと、生活の中でですか、そうですね、んー、まず、目標が決まってくるとやっぱり、なんていうんですかね、今ダラダラしている時間を見直すことができるのかなって気がしますし、あと、目標が決まると多分、他の人とかにも僕はここに行きたいんだとかって話せるようになってくるから、積極的に将来の話とかをもっとするようになるのかなって。</p>
<p>T1: 自分の中では理想的な先生像っていうのは、どんな感じなんですか？1-1</p>	<p>C1: 【羅列的な答え方。】あ、何か、1人1人、あ、とりあえず平等に皆と接することができるっていうのと、ちゃんと余裕を持って、クラスの皆のことを考えられるとか。あとは、事務的なこととかをきちんとちゃんとやるっていう感じで。あとは仲良くできるとか。</p>
<p>C9: 去年のバイトの時と比べて、どういう風に変っていたらいいなと思いますか。2-4</p>	<p>C9: 【結びつきの弱い事柄を羅列的に答えた。】楽しかったらいいなって。2年前はなんか、むっちゃくちゃだるい時とかもあったんですよ。もう行きたくないなっていうのもあって、で、子どもと色々遊んでいたりしても、危ないとか怒ったりとか、むかつくとか思ったりすることもあったんですけど、広島学園の方でバイトしているって言ったじゃないですか、その経験がちょっとは活かせたらいいなって。他の勉強に関しても、何かその辺をうまくちょっと、誘導尋問みたいなのをしている、もう少しそのやり方とかを教える風にできたらいいなあと思いますね。</p>

<意欲性> 評定 4

質問に対し、意欲を全面に出して答えた。積極的に成し遂げようとする態度で、前向き、ストレートな熱意、気持ちや感情に重点を置いて答えた。

T40：（教員採用試験と一般就職の就職活動は）両立してやっていけると言われたら？ 5-2	C40：【気持ちに重点を置き、意欲的に答えた。】そうしたら、勉強もしないといけないから、あ、そうですね、どっちにしても勉強はするけど、あ、でもなんだろう、もっと企業とかはなんか、具体的には考えられていなかったけど、自分の中であんなかやってみたいなとか、一般就職の活動も絶対勉強になるからやってみたいなっていうのがあって、自己分析とかもやったほうがなんか将来のためになるような気がしていたんですけど。もし、そうになったらそっちのほうも一生懸命やる。
T12：他には、周囲の人は、IEさんのどういう行動から、IEさんがやりたい仕事を決めたことに気が付くと思いますか。 3-5	C12：【意欲を全面に出して答えた。】なんか、すごい、すごい、頑張り出したとか、何かを、それに関する勉強とか。なんか、それに必要なことを頑張り出したりそれで分かるんじゃないかなとか。
T5：時間があって、自分の納得がいくように時間が使えたとします。それってどういう状態？ 2-3	C5：【積極的に成し遂げようとする態度で答えた。】勉強、今日はここからここまでやるとか、ちゃんと自分で最低限それは守りたいなって思います。ちゃんと守れるように。

<意欲性> 評定 3

質問に意欲を持って答えたが、全面的とまでではない。自分のできなさのようなネガティブな面にやや触れながら答える。

T11：他にはどうですか、以前学童保育のバイトをしていた時と今度のバイトの時に、どういうところで自分が違っていたらいいなあって感じますかね。 2-5	C11：【できなかった経験に触れながら意欲を持って前向きに答えた。】ああ。えっと、叱れたらいいですね、叱れたら。前行った時はどうしたらいいか分からず、で、ま、子どもたち同士で悪いことをしても、どこまでを叱ったらいいとか、一応、その学童保育の方ではちゃんとベテランの方っていうか、先生じゃないんですけど、ちゃんとした方っていうのが2人くらいいるんですけど、その人たちともうまくコミュニケーションをとって、この子はこういう子だからこういうところに気を付けて下さいとかみたいなのがあったら、注意とかして見て、問題があったら怒ったりとかそういうのができたらいいかなと思います。
T12：思ったことをちゃんとしてしっかりやることができ、自分に厳しくできたなら、今とどんなところが違ってくる？ 2-8	C12：【決意のように意欲を持って答えた。】もうちょっとけじめのある人に。んー、自分で自分をちゃんと管理できるじゃないですけど。
T23：日本でも抵抗なく人に聞くことができたら、今と比べてどんなところが違ってきますか？ 4-3	C23：【自分のできなさに触れながら意欲を持って答えた。】なんか、こう、今は閉じこもったところが多いけど、それを出していけるようになるかもしれない。自分の思ったことを口にするのができないので、本音が言える。

<意欲性> 評定2

質問に対し、十分に意欲を持って答えていない。さほど積極性や強い意欲が感じられない。自分のできなさのようなネガティブな面に重点を置いて答える。

<p>T15: 本番の発表に向けて、自分としてはどういう風に関わっていけるのが理想ですか。3-2</p>	<p>C15: 【“何かしようかなって感じ”と意欲はあるが、十分積極的な態度ではない。】とりあえず、あの、実験をやっている途中なんですけど、その実験も、実験をしている人は固定した方がいいということになって、それで、実験、担当ではないんで、他の人に任せる、結果が出てくるのを待ってから、それから何かしようかなって感じなんです。</p>
<p>T1: 将来、どんな理想の家庭調査官になりたいですか? 1-1</p>	<p>C1: 【自分のできなさに重点を置いて答えた。】んー、なんか、ちょっとは人のためになることをしたいっていうか、心理に行きたいって思ったのも、よく、私、悩みとか人に相談とかはしているけど、相談されてもうまく答えることとかアドバイスとかなかなかできなくて、すごいそれがうまい人っているじゃないですか、すごいいい言葉をかけてあげる人とか。なんか、そういうすごい羨ましいというか、そういう人になれたらいいなって。心理を勉強したら、なんかちょっとは分かるかなあとか。</p>
<p>T2: 例えば一般企業で就職した場合、どうい生活を送っていたいなあっていうのはありますか。1-2</p>	<p>C2: 【大雑把な答え方で、さほど強い意欲が感じられない。】生活?何か普通の(笑)、何だろう、朝、朝、会社に行って夕方に帰って来る、普通の生活がしたいなあと。</p>

<意欲性> 評定1

意欲が感じられない。質問に丁寧に真剣に答えようとする意欲や積極性が漠然としていてほとんど感じられない。

<p>T23: それを聞いて、自分としてはどうい風にしたいですか。3-9</p>	<p>C23: 【できなさや難しさの説明のみで、意欲が感じられない。】ま、実際の小学生とか相手にするんなら、そういうマイナス面は残しちゃまずいかなっていうのがありますね。色々やってみたっていうのがあるんですけど、実際には試されない、勉強とかにしたって変な風に教えたりとかしたら、それが原因で勉強が嫌いになったとか、あ、最悪の場合ですけど、そういうなことを考えると、だめなんで。</p>
<p>T6: 教材開発をしている生活って、どうい風にできたらいいなっていうイメージはありますか。2-1</p>	<p>C6: 【質問の前提を打ち消すようで、質問に答えようとする意欲が感じられない。】あんまりないですね、イメージとしては自分が実際にそういう風に調べて、考えて、それを実践していけるっていうのが理想にあるんですけど、それを考えたときにそれをどうやったらできるか、先生になったら調べることとかっていうのが難しいと思うんで。でも先生にならないと子どもと接する機会はなかなかないし、色々考えたりしますね。</p>
<p>T18: 夜の時間はどうい風に使えるのがいいなと? 4-1</p>	<p>C18: 【質問に意欲を持って丁寧に答えようとする感じが無い。】夜の12時か1時に寝て、それまで勉強して、で、朝ちゃんと起きて学校へ行く。</p>